メルトーチ防水の取扱い並びにメンテナンスのお願い

施工中でのお願い

- メルトーチ防水の施工現場は火気を使用しており、又有機溶剤を使用した副資材やプロパンガスを使用しておりますので、立ち入らないでください。
- 有機溶剤を使った副資材やプロパンガスボンベを使用しておりますので機器、工具には近寄ったり、触れたりしないでください。
- 施工中は独特のプロパンガス燃焼時の音や風向きによって有機溶剤臭がする場合がありますので立ち入らないでください。

露出防水層取扱いのお願い

- 露出防水層は専門技術者、メンテナンス担当者もしくは管理者に許可を得た方以外は、防水層上を歩行したり、養生せずに物を置いたりしないでください。
- 止むを得ず、露出防水層上を歩行する場合は、ゴム底など柔らかい履き物を使用してください。
- 物を落したり、引きずったりして防水層を損傷させないでください。
- 露出防水層の上に有機溶剤・薬品類や油などをこぼさないでください。防水層の急激な劣化につながります。

保護防水層取扱いのお願い

- 保護層の上に直接客土したり、草木の植栽を行なわないでください。
- 保護層の目地に草などが生えた場合は、根が防水層に影響を及ぼす場合があるので早めに抜き取ってください。

メンテナンスのお願い

- 露出防水層の保護塗料は、3年を目途に塗替えをお薦めいたします。なお、防水層の点検、補修及び保護塗料の塗替は専門の業者にご相談ください。
  保証上の問題がありますので、まず施工をご依頼された防水工事業者にご相談ください。工事業者又は弊社専門技術者の点検を依頼し、その意見を良くご理解された上で、同一の塗料で塗替補修を行なってください。（原則として塗替は有償となります。）
- 仕上げ塗料に微細なひび割れや、剥離が生じることがありますのが、防水機能には何ら影響ありません。
  とくに程度が激しい場合はご相談ください。
- ドレン周辺は定期的に点検し、排水が妨げられないよう、土砂、草などを取り除いてください。

本カタログの記載内容については、予告無しに変更する場合がありますので、予め御了承願います。

宇部興産株式会社

建設資材カンパニー　建材事業部　営業推進部

〒105-8449 東京都港区芝浦1丁目2番1号 シーバンスN館
TEL(03)5419−6206 FAX(03) 5419−6265
http://www.ube.co.jp

技術の翼
革新の心
Wings of technology
Spirit of innovation
UBE

東京建材支店 〒105-8449 東京都港区芝浦1丁目2番1号 シーバンスN館 TEL 03-5419-6203
大阪建材支店 〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20(堂島アバンザ20F) TEL 06-6346-1363
名古屋建材支店 〒461-0005 名古屋市東区東桜1-1-10(アーバンネット名古屋ビル20F) TEL 052-961-1375
広島建材支店 〒730-0031 広島市中区紙屋町2-1-22(広島興銀ビル) TEL 082-244-7234
九州建材支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-2-12(天神122ビル8F) TEL 092-781-2309
東北建材営業所 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 (鹿島広業ビル) TEL 022-262-6235
札幌建材営業所 〒007-0801 札幌市東区東苗穂一条1-2-44 TEL 011-784-8183

販売取扱店

2014. 1. 3000 Ⓔ

改質アスファルト ルーフィングシート

UBE

メルトーチ

トーチ工法用防水シート

建築防水工法

宇部興産株式会社

今、最も新しい都市型防水!

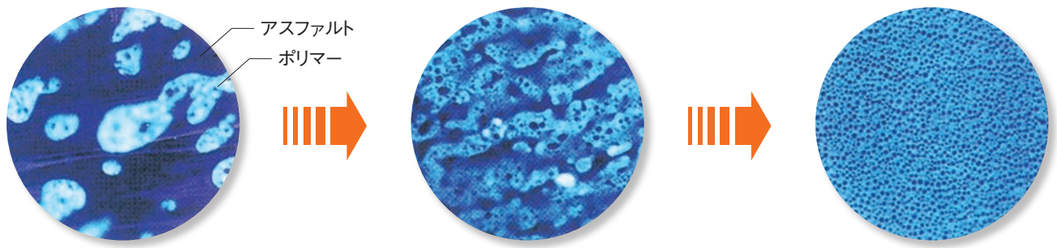
メルトーチ

まだ熱工法アスファルトに固執していませんか?
UBEの総合技術が、わずかの雨漏りもシャットアウトします。

宇部興産は、長年にわたり蓄積してきた技術力、ノウハウを背景に、
トーチ工法用の改質アスファルトルーフィングシート
「メルトーチ」を製造、販売致しております。
環境対応型防水工法としてのメルトーチ防水工法は、
永く皆様のお役に立っております。

メルトーチで採用の改質アスファルトコンパウンド

■ ポリマーの分散度（マトリックス写真）



混合開始直後　相転移前　最終混合状態

メルトーチの特長

「メルトーチ防水工法」は環境に配慮している工法です!

環境に優しい材料

●溶融アスファルトにみられる臭気や煙の発生がほとんどありません。
●居住者、近隣に対して安全でより良い環境下で施工ができます。

経済効果

●既存アスファルト防水層の上からメルトーチを施工することが可能です。
●既存防水層撤去による廃材の発生や、施工後の残材の発生が少なく経費を削減することができます。

耐久性

●メルトーチは合成繊維不織布と改質アスファルトを組み合わせたトーチ工法用の防水シートで、耐熱性が高く、耐水性および寸法安定性に優れていますので強靱ですばらしい耐久性を発揮します。

ジョイントの水密性

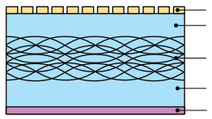
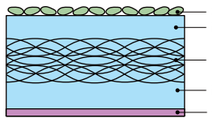
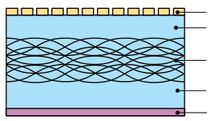
●メルトーチはトーチバーナーによる加熱融着工法のため、シート相互のジョイント部分が一体化し、水密性は完全なものになります。

下地追従性

●合成繊維不織布と改質アスファルトとの相乗効果により、下地の複雑な動きやクラックに優れた追従性があります。

グレードおよび物性

メルトーチの構成・規格

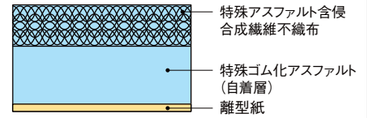
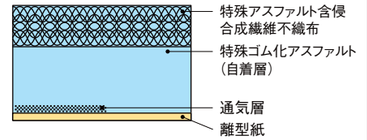
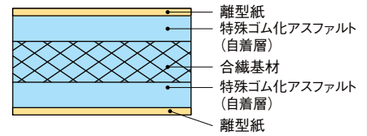
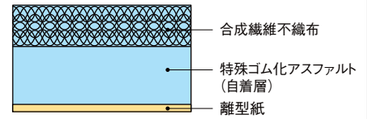
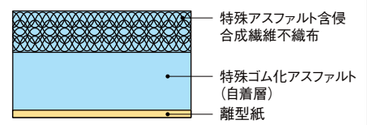
	グレード		構　成	材料規格 長さ(m)	幅(m)	厚さ(mm)	重量(kg)	備　考
メルトーチ	非露出用	AP25B		15	1	2.5	40	〔一般地〕 押え用 (APP改質)
		SB25B		15	1	2.5	42	
	露出用	※AP40B		8	1	4.0	33	〔寒冷地〕 押え用 (SBS改質)
		※SB40B		8	1	4.0	37	
	露出用	AP40M		8	1	4.0	35	〔一般地〕 露出用 (APP改質)
		※AP45M		8	1	4.5	38	
		SB40M		8	1	4.0	36	〔寒冷地〕 露出用 (SBS改質)
		SB45M		8	1	4.5	39	
メルテープ	T2520A			15	0.2	2.5	8	増張り用
	T2520S			15	0.2	2.5	8	
パーフォベース PF08B				30	1	0.8	22	絶縁工法用 穴あき ルーフィング (開穴率14.5%)

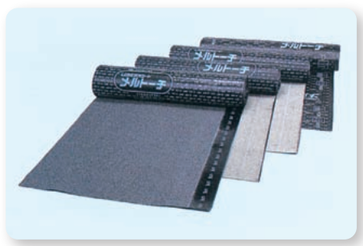
※AP40B、SB40B、AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売員までお問合せください。

メルトーチの物性

			APP改質 AP40M	SBS改質 SB40M	試験方法
シートの物性	引張強さ(N／cm)	タテ	169	167	JISA6013
		ヨコ	131	106	
	伸　び(%)	タテ	51	40	
		ヨコ	66	48	
	引裂強さ(N)	タテ	38	48	JISA6013
		ヨコ	35	75	

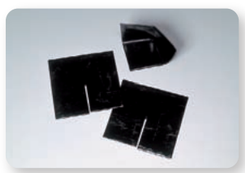
RAシートとテープの構成・規格

グレード		構　成	材料規格 長さ(m)	幅(m)	厚さ(mm)	重量(kg)	備　考
RAシート	SS20R		15	1	2.0	35	非露出下層用シート
RAスポット	SM20C		15	1	2.0	35	部分接着型 通気シート用 (接着面積41.6%)
RAテープ 両面タイプ	WT133		15	0.33	0.9	6.9	RAシートの 役物回り増し張り用 テープ 2巻／箱
RAテープ 片面タイプ	MTS205		20	0.05	0.5	0.8	断熱材の 目地部捨張り用 テープ 24巻／箱
	ST020		15	0.20	2.0	7	増張り用



メルトーチ

メルテープ


メルパッチ

メルシール

RAシート SS20R　RAスポット SM20C

副資材一覧

下地処理材 メルトーチプライマー

下地処理材で、下地表面の除去できないゴミやホコリを下地面に固着させ、シートの接着力を向上させます。臭気の少ない溶剤タイプです。

〈仕　様〉15kg石油缶入
〈主成分〉特殊アスファルト系溶剤タイプ

第四類　第二石油類
溶　剤　石油ナフサ

下地処理材 RAプライマー

RAシート用のプライマーで、RAシートの接着力を向上させます。また主成分はRAシートの粘着層と同じものを使用しています。

〈仕　様〉15kg石油缶入り
〈主成分〉特殊ゴム化アスファルト系溶剤タイプ

第四類　第一石油類
溶　剤　トルエン　70%
吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

速硬化型下地調整材 クイックベース

厚塗りしても早く硬化し、急な雨にも仮防水性を発揮します。
硬化後の皮膜に亀裂が生じている場合は除外されます。

主剤
〈仕　様〉17kg石油缶入
〈主成分〉ゴムアスファルトエマルジョン

硬化剤
〈仕　様〉25kg紙袋入
〈主成分〉無機水硬性粉体

ユービーカチオン

●ユービーカチオンK（コテ用）
〈仕　様〉　ペール缶
〈主成分〉プレミックス粉体　　15.5kg
　　特殊樹脂エマルジョン　4.5kg
標準塗布量は1mm厚ですが、3mm厚まで可能です。

●ユービーカチオンR（ローラー用）
〈仕　様〉ペール缶
〈主成分〉プレミックス粉体　　11kg
　　特殊樹脂エマルジョン　6kg
標準塗布量は0.3mm厚ですが、1mm厚まで可能です。

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

下地処理材 UBE水性プライマー

ゴムアスファルトエマルジョンタイプの下地処理材で、施工性に優れます。有機溶剤を含みませんので室内及び地下防水など換気の悪い場所などでの使用に適します。

〈仕　様〉17kg石油缶入
〈主成分〉ゴムアスファルトエマルジョン

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

下地調整材 メルベース

熱アスファルト防水層の改修に最適です。メルベースE、及びメルベースDがセットになっているため調合が簡単で正確です。
※メルベースE18kg／缶に対してメルベースD 40kg（20kg／袋×2）必要です。

メルベースE
〈仕　様〉18kg石油缶入
〈主成分〉ゴムアスファルトエマルジョン

メルベースD
〈仕　様〉20kg紙袋入
〈主成分〉無機水硬性粉体
〈カラー〉ナチュラル

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

下地活性調整材 RAペースト

有機溶剤系の下地活性調整材で、優れた調整効果があります。
仮防水性もありますが、硬化後の皮膜に亀裂が生じている場合は除外されます。

〈仕　様〉20kg石油缶入り
〈固型分〉80%

第四類　第二石油類　溶剤　キシレン　15%
吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

速硬化型下地調整材 勾配レベラー

セメントを主成分とする下地調整材です。
3mmから50mmまでの厚付け施工が可能です。
勾配調整を行ないたい下地に使用できます。

〈仕　様〉25kg紙袋入
〈主成分〉樹脂パウダー入水硬性粉体

※専用カタログを参照ください。

速硬型下地調整材 マルチペースト（旧マルチベース）

エポキシ樹脂エマルション（二成分型）と特殊水硬性粉体を材料とする下地調整材です。様々な防水材用の下地調整材として最適な材料です。最大で10㎜までの厚付が可能な上、短時間で硬化します。

マルチペースト混和液（4kgセット／箱）
〈仕　様〉主剤：1kg、硬化剤：3kg
〈主成分〉主剤：変性エポキシ樹脂、
　　硬化剤：変性脂肪族ポリアミン
マルチペースト粉体
〈仕　様〉15kg紙袋入
〈主成分〉無機水硬性粉体
※専用カタログを参照ください。

メルトーチバーナーJA

・メルトーチバーナーJAセット（50㎜セット、70㎜セット）
　セット内容：バーナー本体（バーナー部+ホース10mバルブ付）、
　　専用コテ、専用ケース、取扱説明書

・バーナー部（50㎜、70㎜）

・ホース10mバルブ付

RAボンド

RAシートジョイント部及び立上り用接着剤で主成分はRAプライマーと同様にRAシートの粘着層と同じものを使用していますので、乾燥後も粘着感が残り、RAシートジョイント部の水密性はより一体感があります。

〈仕　様〉15kg石油缶入り
〈主成分〉特殊ゴム化アスファルト系
　　溶剤タイプ

第四類　第一石油類　溶剤　トルエン　50%
吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

ウレタン併用プライマー SBシーラー

役物回りのSBS系メルトーチにウレタン塗膜防水材を重ね塗りする部分に下地処理として使用する特殊プライマーです。

〈仕　様〉3kg石油缶入
〈主成分〉ウレタン樹脂塗料
〈固型分〉30%

第四類　第二石油類
溶　剤　トルエン（25～35%）
　　キシレン（5～10%）
吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

断熱材張り付け用 RA水性ボンド

アクリル系水溶性タイプの断熱材接着用ボンドで、乾燥後も粘着感が残り、施工性に優れます。

〈仕　様〉17kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン
〈固型分〉52%

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

断熱材張り付け用（点張り） アクアシャッターACG材

ポリマーセメント系塗膜防水材として販売しておりますが、断熱材張り付け用接着材料としても優れた接着性、施工性を有します。

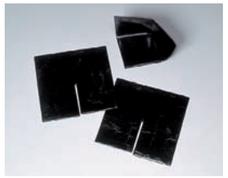
ACG原液
<仕　様>18kg石油缶入
<主成分>アクリルエマルジョン

ACG混和材
<仕　様>22kg紙袋入
<主成分>無機水硬性粉体

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

役物回り補強用 メルパッチ

シート状の改質アスファルトで役物回りの補強に使用します。



〈仕　様〉
寸法：20cm×20cm
厚さ：3.0mm
50枚／箱
〈主成分〉
改質アスファルト

フクレ防止工法用 UBE脱気筒

フクレ防止工法に使用、下地の水分を外気に拡散します。

〈材　質〉
ステンレス製
〈仕　様〉
高さ：18.5cm
外径：φ25cm
筒径：φ58mm

鉛ドレン レッドドレン

レッドドレンは、耐候性、耐薬品性等に優れ、複雑な下地にフイットしやすい鉛製のドレンです。

〈仕　様〉
厚さ：1.5mm
外形：φ45mm、φ65mm、
　　φ95mm（3種類）
つば：300mm×300mm
高さ：150mm

目地仕上げ処理用 ミネラル

Mタイプシート施工の仕上げ処理用に使用します。
トーチバーナーの炎により美観を損ねた個所やコンパウンドがはみ出した端部にはミネラル（共砂）を散布して仕上げます。

〈仕　様〉5kg袋入
〈カラー〉ナチュラル

パイプ回り補強用 メルシール

ヒモ状の改質アスファルトでパイプ回りや基礎台アンカーボルト等の特に水密性を確保したい部分のシール処理に使用します。

〈仕　様〉
直径：7mm
長さ：50cm
100本／箱
〈主成分〉
改質アスファルト

RAシール

RAシートジョイント部、役物廻り、端末部に使用するシーリング材で、ゴムアスファルト系ですのでRAシートとの接着性も優れ、RAシートの水密性がより向上します。

〈仕　様〉330ccカートリッジ
　　ダンボール箱（24本入り）
〈固型分〉80%

第二類引火性固体
吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

機械的固定金具 ディスク、アンカー

メルトーチ機械固定工法用の固定金具で、下地コンクリートとの固定力を十分確保します。

〈ディスク〉
・ディスクⒶ（5mm用）
・ディスクⒷ（6mm用）
　規格：外径45mm×厚み1.2mm、鉄製
　荷姿：100枚／箱
〈アンカー〉
・Y530　規格：直径5mm×長さ30mm、鉄製
・Y650　規格：直径6mm×長さ50mm、鉄製
・AY550　規格：直径5mm×長さ50mm、アルミ製
※必要な固定力に応じて使い分けます。

絶縁シート

保護打設工法の場合、メルトーチと保護層の絶縁に使用するポリプロピレンを原料としたシートで、伸び・強度・耐久性とも優れます。

〈仕　様〉
目付量　82g／㎡
幅1150mm×長さ100m
クラフト紙包装

露出防水着色仕上げ用 RAコート

メルトーチの表層着色仕上げに使用するアクリル系水溶性タイプの塗料で、耐候性に優れます。

〈仕　様〉15kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン
〈カラー〉シルバー、グレー、グリーン
〈固型分〉37%（シルバー）55%

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

露出防水着色仕上げ用 RA遮熱コート

メルトーチの表層仕上げに使用するアクリル系水溶性タイプの塗料で、特に優れた反射機能を持ち大幅な遮熱効果を発揮します。

〈仕　様〉20kg石油缶入
〈主成分〉特殊骨材入アクリルエマルジョン
〈カラー〉ホワイト

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

露出防水着色仕上げ用 RA高反射コート

メルトーチの表層着色仕上げに使用するアクリル系水溶性タイプの塗料で、優れた日射反射率を持ち、防水層の温度上昇を大幅に抑制します。

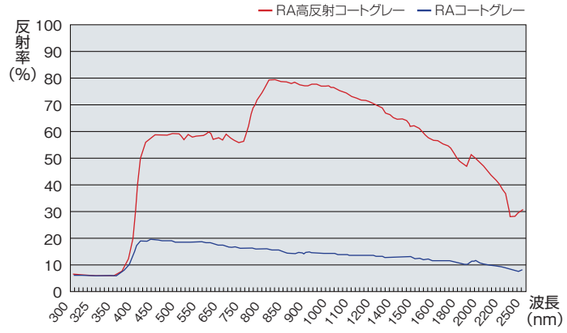
〈仕　様〉15kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン
〈カラー〉ライトグレー

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

RA高反射コート

●「RA高反射コート」は太陽からの日差しを反射させ防水層表面の温度上昇を抑えます。
●建物内の温度上昇のみならず、アスファルト防水層の熱劣化についても抑制します。色調についてもライトグレーとする事で従来の保護塗料と比較して施工後のギラツキ感が少なくなっています。

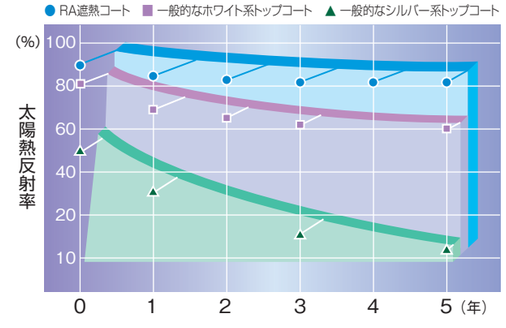
■ RA高反射コート塗膜の反射率



RA遮熱コート

●「RA遮熱コート」はセラミックタイプの特殊フィラー添加による反射性能により高い遮熱性を有しています。抜群の遮熱性能により建物内の温度上昇を抑え、冷房効率をアップさせます。
●また、「RA遮熱コート」はセルフクリーニング性能を付与させております。この性能により塗料膜表面に汚れが残り難く、長期にわたり太陽熱を反射し遮熱効果が持続します。

■ RA遮熱コート塗膜の経年反射率変化



断　熱　材

●断熱材（硬質ウレタンフォーム（材質:イソシアヌレートフォーム））GFTボード
●断熱材（硬質ポリウレタンフォーム）　GFボード
（アキレス社製）

●連絡問い合せ先
アキレス株式会社 断熱資材事業部 断熱資材販売部
ホームページ　http://www.achilles.jp/　http://www.achilles-dannetu.com/
本　　社：〒160-8885　東京都新宿区大京町22　　TEL：03-5379-4564
関西支社：〒550-0005　大阪市西区西本町1-14-15　TEL：06-6534-2170

1.下地の点検と処理（新築時）

防水施工をする場合、下地ごしらえの良否が防水層の施工のしやすさ、施工後の耐久性に大きく影響しますので、あらかじめ以下の点検を十分に行ってください。

①下地表面は凸凹ができないように、金ゴテで平らに仕上げてください。
②入隅は通り良く直角とし、出隅は通り良く面取りをしてください。
③ドレンはシート防水に適したもので、その回りは水はけを良くしてください。
④パラペット等の立上がり面にジャンカ、パネルの目違い等がある場合はモルタルで仕上げるかサンダー又はグラインダー等で平滑にしてください。
⑤テープやメルトーチの下地への接着を妨げるレイタンス、ホコリ、油滲み、突起物等は完全に除去してください。下地表面のレイタンスはケレン掛けで完全に取り除きます。レイタンスの上からプライマーを塗布しても、乾燥すれば簡単に剥がれますので注意してください。
⑥下地は十分に乾燥させてください。

養生期間：モルタルの場合　打設後 10 日以上
　　コンクリートの場合　打設後 1 ヵ月以上

高周波水分測定器は、測定下地が平滑でないと測定値にバラツキが多く信頼性に欠けますので十分注意してください。
下地水分の簡易測定法として以下の方法があります。

(a)約 1 ㎡の下地にポルトランドセメントを薄く撒いて、その上にポリエチレンフィルムを被せて周辺を粘着テープ等で密閉します。約 2 時間後にセメント粉末を軽く拭いた時に飛散すれば下地の乾燥は十分です。
(b)上記のセメントの代りに新聞紙を置き、同様にして約 2 時間後に取り出した新聞紙に火をつけて燃えれば下地の乾燥は十分です〕
(c)夕刻に約 1 ㎡の下地にポリエチレンフィルムを敷き、周辺を粘着テープ等で密封し、翌朝フィルムの裏面に結露がなければ、下地の乾燥は十分です。

⑦水勾配は露出仕様では 1 ／ 50 以上となっていますが、部分的に水勾配が悪く水溜まりの発生しそうな場所は、樹脂モルタルを用いてレベル調整を行います。

2.プライマーの塗布

●プライマーは溶剤系のメルトーチプライマーとアスファルトエマルジョン系の UBE 水性プライマーの 2 種類があります。居住者および近隣に対しての環境等を配慮すると UBE 水性プライマーが望ましいのですが、下地に旧防水層のプライマーや皮膜が残っていたり、浸透性の悪く弾きやすい下地には、UBE 水性プライマーは相応しくありません。
●プライマーの塗布は、ローラー刷毛等で均一に標準塗布量を塗布します。

a. メルトーチプライマーの塗布量は、0.2kg ／㎡オープンタイムは通常 4-5 時間です。
b. UBE 水性プライマーの塗布量は、0.2kg ／㎡、オープンタイムは通常 60～90 分です。
c. ALC パネル下地の場合、下地へ浸透しやすいので塗布量は 0.5kg ／㎡程度になります。

3.下地調整材の塗布

砂付きアスファルト防水を改修する場合、下地調整材で処理した後、メルトーチを張り付けます。下記の下地調整材を塗布する場合は、プライマーは不要です。

下地調整材の塗布量、硬化時間は、下記の表を参考にしてください。

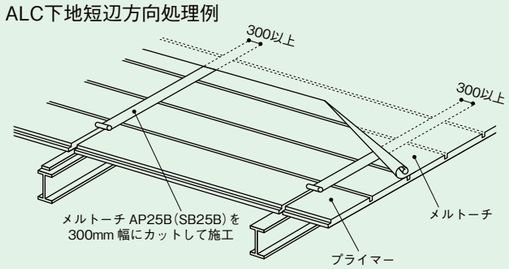
商 品 名	標準塗布量	硬化時間(20℃)	防水施工可能時間
メルベース	1.0kg/㎡~1.5kg/㎡	6時間	塗布後24時間以降
クイックベース	2.0kg/㎡	1時間	塗布後24時間以降
RAペースト	1.0kg/㎡~1.5kg/㎡	4時間	塗布後24時間以降

※下地の状況により塗布量が変わる場合があります。

4.絶縁・増張り

①ALCパネル、PC部材、異種下地間の目地部分にはメルトーチAP25B（SB25B）を300mm幅にカットしたもので下地との絶縁・補強を行います。（下図参照）
②コンクリート打ち継ぎ部分にはメルテープを密着張りして補強します。
③ロッキング工法のようにALCのパラペット立上り部の入隅に大きなムーブメントを生ずる可能性がある場合は、ここには成型キャント材などの成形材を用います。

ALC下地短辺方向処理例

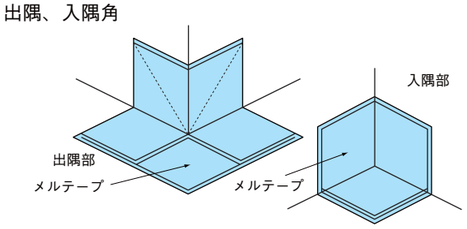


5.特殊部位の処置

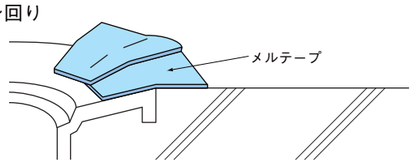
出隅、入隅、ドレン回りなどの役物回りは、メルテープまたはRAテープで増し張り処理をします。

下地とメルテープの間に炎が入るようにして張付け、端部と段差は平滑に仕上げます。

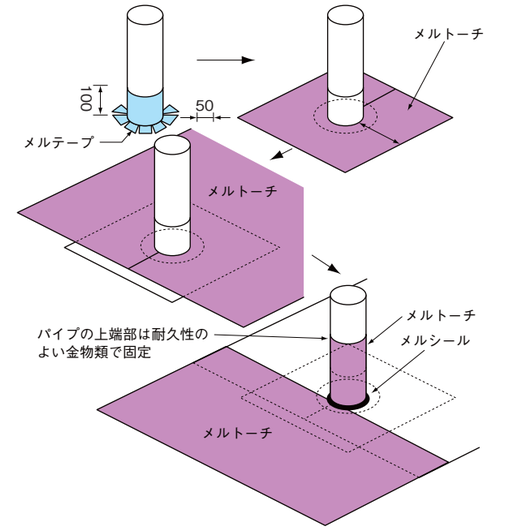
出隅、入隅角



ドレン回り

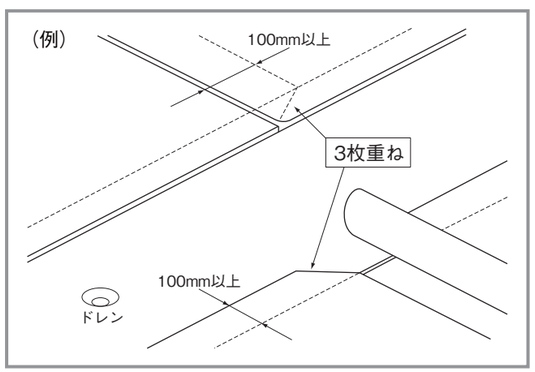


パイプ回り



6.メルトーチの仮敷き

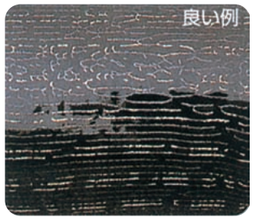
●メルトーチはドレンの位置を確かめ、水勾配と逆張りにならないように割付けるのを原則としますが、部分的に逆張りとなるのは問題ありません。
●最初の一本目はロール状となっているメルトーチを広げ、入隅線に対して平行もしくは直角になるように位置を決めます。
●二本目からは接合部の重ね幅を、100mm以上になるように仮敷きします。3枚重ねとなる部分は2枚目のメルトーチを①斜めに切り落す②平滑になる様に加熱溶融する、のどちらかの処理をします。

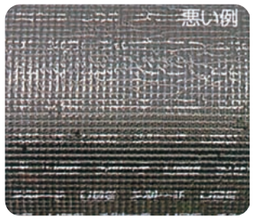


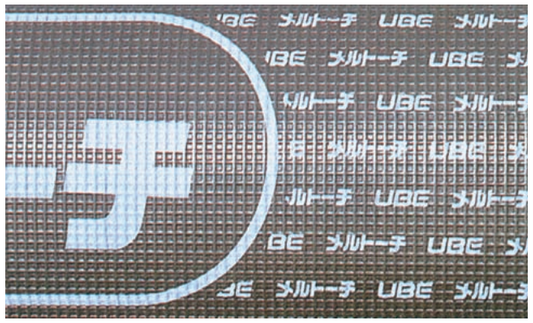
7.メルトーチの施工

メルトーチ裏面のポリエチレンフイルム全面に「UBEメルトーチ」の文字が印刷され、さらに格子状にエンボス加工されています。これらの表示・形状は改質アスファルトの変化を目で確認するためのものです。

全面に印刷されている「UBEメルトーチ」の文字が崩れて読取りができなくなるまで加熱溶融しなければシートの加熱は十分ではありません。







① 平場

●仮敷きしたメルトーチを、動かないように半分程巻き戻しをします。

●巻き戻したメルトーチの裏面を、トーチバーナーで下地と同時にあぶりながら融着していきます。

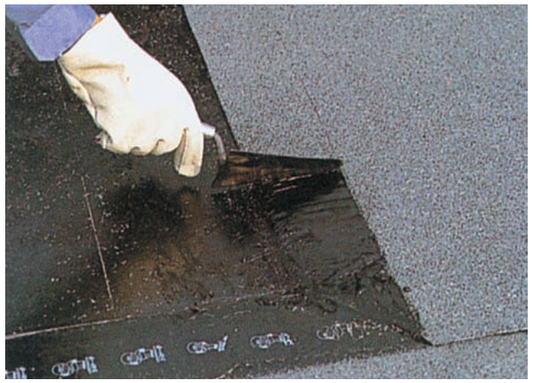
●残り半分も巻き戻してから融着していきます。

●ジョイント部は、コンパウンドが均一にはみ出すように施工します。

※端部よりコンパウンドのはみ出しがない場合は、ジョイント部に金ゴテでトーチバーナーの炎が入り込むようにして、再融着させます。

●平場から立上り部へ張り上げる場合、入隅線に浮きやシワが生じないように十分に押え込みます。

※ ミネラル仕上げ（AP40M、SB40M）



●トーチバーナーの炎により美観を損ねた個所やコンパウンドがはみ出した端部にはミネラル（共砂）を散布して仕上げます。

●ジョイント部の下側となるメルトーチの表面にミネラルが付着している場合は、その表面をあぶり金ゴテでミネラルを除去します。

② 立上り部

●立上り部のメルトーチの張付けは、巻上げ張りを基本とし、浮きやシワができやすいのでエアーの巻込みや凹凸ができないように丁寧に施工します。

●立上り部から平場へ張り掛ける場合、入隅線に浮きやシワが生じないように十分に押え込みます。

●メルトーチの端部は、所定の位置に均一にそろえて耳浮きなどのないように金ゴテを焼いて押え平滑にします。

●メルトーチの末端部は、ステンレス製またはアルミニウム製などの押え金物を用いて留め付け、シール材を充填します。

③ 絶縁工法（UBE脱気筒）

●絶縁工法の場合、下地水分の気化・膨張によるメルトーチのふくれは、パーフォベースや部分粘着シートのRAスポット併用工法や点張り工法だけでは防止ができないことがありますので、水分を外気へ拡散させる脱気筒を併用する手段が有効です。

●設置数量は、通常、25～100㎡に一個です。

④ 点張り工法（TA-322、TA-312、他）

下地の乾燥が悪く、防水施工後にフクレ発生が予想される場合には、RAスポット（部分粘着シート）パーフォベース（穴あきルーフィング）を用いる通気工法と、パーフォベースなどを用いないでフクレ緩和ができる点張り工法があります。

メルトーチの裏面フィルムに印刷されている部分接着箇所で下地接着させます。フクレ防止工法であるため、脱気筒の設置が必要となります。

●メルトーチの裏面フィルムに印刷されている部分接着箇所が下地との界面に現れた時にトーチバーナーで部分接着箇所と下地を加熱溶融させて張り付けます。この場合にはジョイント部分は溶融させないで残しておきます。部分接着箇所からはみ出してジョイント部分まで加熱溶融させてしまうと、次のジョイント部分の繋ぎ込みでコテ先が挿入できず施工が困難になるのでジョイント部を溶着させないよう注意してください。

●次に加熱溶融していないジョイント部（サイドラップ）にコテを挿入して持ち上げ、この中にトーチバーナーの炎を入れて加熱溶融し、挿入しているコテを外して直ちにコテ又は足で接合部（サイドラップ）を押さえながら接着させます。ジョイント部分から溶融した改質アスファルトが約10mm程度はみ出す位に良く加熱することが重要です。

8.保護塗料の塗布

●露出防水工法の場合、メルトーチの上から防水保護塗料のRAコート又はRA高反射コート、RA遮熱コートを塗布します。

●RAコート又はRA高反射コート、RA遮熱コートはエマルジョン系塗料なので塗布前によく攪拌し、5℃以下の施工を避けます。また施工後に降雨があった場合、耐久性低下の原因となりますので、天候に注意します。

●塗布方法は、ローラー刷毛等で標準塗布量を 2 回に分けて塗布します。（クラック等の発生原因となりますので、必ず 2 回に分けます）

●各保護塗料の標準塗布量は下表の通りです。

商品名	標準塗布量
RAコート	0.5 kg／㎡
RA高反射コート	0.5 kg／㎡
RA遮熱コート	1.5 kg／㎡

●保護塗料は2～3年で塗り替えられることをお奨めいたします。

●降雨により、花粉や土砂などが堆積している場合、マッドカーリング現象（花咲現象）が発生する事があります。日常のメンテナンスにおいては、花粉や土砂が堆積しない様に管理が必要です。

●施工完了後、急激な降雨によりドレン部に泡が発生する事がありますが、安全性上の問題はなく製品の異常によるものではありません。

改修時の処理

1.既存保護層を残す場合

●コンクリート保護層表面が土砂・こけ・草木あるいは経年劣化した場合は、高圧洗浄等で清掃し、骨材が見えたり凹凸がある場合は、ユービーカチオンK又は樹脂モルタル等で下地調整を行います。

●水はけの悪い勾配不良がある場合は、勾配レベラー又は樹脂モルタル等で補修します。

●伸縮目地付近によく見られる落部・浮き・剥離部は、モルタル又は樹脂モルタル等で充填あるいは部分的に撤去して補修します。

a. 既存目地材の飛び出し部分・異物等を除去し、目地材の欠損部はバックアップ材を入れシール材などで充填します。

b. 目地部分を通気溝として利用する場合は、目地材を可能なかぎり除去し、メルテープで処理を行い、脱気筒を取り付けます。

2.既存防水層を残す場合

●既存防水層表面を十分に清掃します。

●既存アスファルトのふくれ、浮きはいったん切開して、トーチバーナーでよくあぶり、下地の水分を乾燥後張り戻して融着させます。

●防水層のふくれ、浮きおよび劣化の激しい個所や張り直しが困難な個所は、カッターで除去して樹脂モルタル等を塗布し平滑に仕上げます。

●既存防水層が合成高分子系ルーフィング防水（塩化ビニル樹脂系シート）の場合は、原則として全面撤去します。

●既存防水層がウレタン系塗膜防水の場合は、ふくれ、剥離・脆弱化部分等を除去し、樹脂モルタル等を塗布して平滑にします。

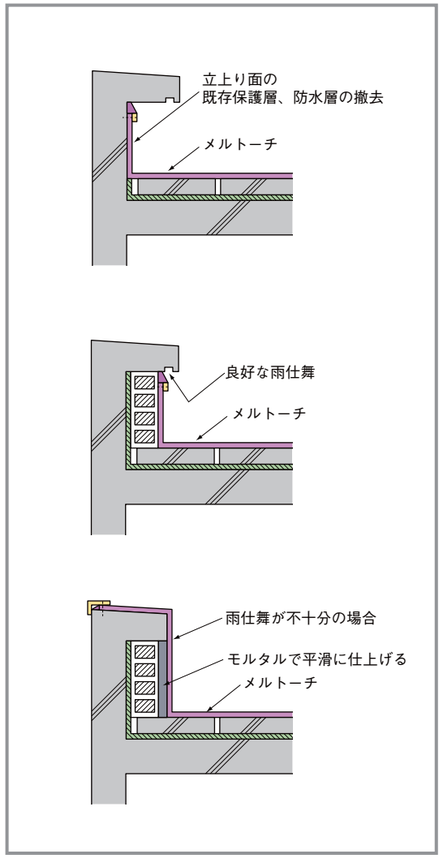
3.既存の保護層および防水層を撤去する場合

●下地スラブコンクリートに付着している防水層残存物のケレン・清掃を行います。

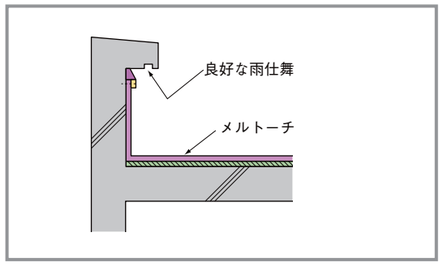
●下地スラブコンクリートの亀裂、欠損部はユービーカチオンK又は樹脂モルタル等を塗布し平滑にします。

4.立上り面の処置

●既存の仕様が保護防水の場合、立上り面の保護層を残すときには、改修防水層の末端部が良好な雨仕舞となるような処置をします。



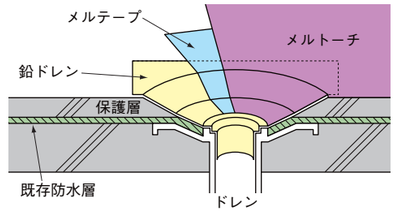
●既存の仕様が露出防水の場合、立上り面の防水層は原則として撤去しますが、残すときには、改修防水層の末端部が良好な雨仕舞となるような処置をします。



5.ドレン回りの処置

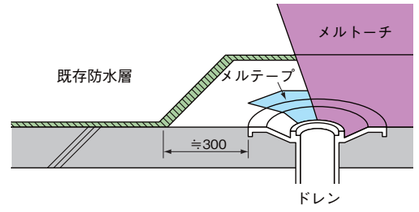
①保護防水のドレン回り

●既存保護層に水が溜まっていると予測される場合は、二重ドレン方式を採用することもあります。鉛ドレンを下地の形状に沿って合わせます。

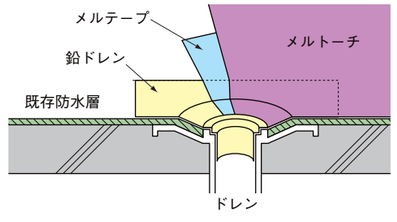


②露出防水のドレン回り

●防水層をドレン端部から300mm程度を四角形に撤去します。



●既存ドレンの老化状態により、撤去または二重ドレン方式を採用することもあります。鉛ドレンを下地の形状に沿って合わせます。



工法一覧表

（ ）内は寒冷地仕様の工法No.および使用材料です。

工法No.	工程 1	2	3	4	5	6	7	頁	官公庁仕様対応
保護打設防水									
TA−101W (TS−101W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP25B (SB25B)	絶縁シート	保護層			17	
MTA−101W (MTS−101W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP25B (SB25B)	絶縁シート	保護層			17	
保護断熱防水									
TA−401W (TS−401W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP25B (SB25B)	接着剤	断熱材	絶縁シート	保護層	19	
MTA−401W (MTS−401W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP25B (SB25B)	接着剤	断熱材	絶縁シート	保護層	19	
露出防水（単層仕様）									
TA−311 (TS−311)	プライマー	AP40M (SB40M)						21	
TA−321 (TS−321)	プライマー	AP40M (SB40M)	保護塗料					21	AS−T2
MTA−311 (MTS−311)	下地調整材	AP40M (SB40M)						21	
MTA−321 (MTS−321)	下地調整材	AP40M (SB40M)	保護塗料					21	AS−T2
露出防水（複層仕様）									
TA−311W (TS−311W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)					22	
TA−321W (TS−321W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料				22	AS−T1
MTA−311W (MTS−311W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)					22	
MTA−321W (MTS−321W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料				22	AS−T1
露出絶縁防水（穴あきシート＋単層仕様）									
TA−314 (TS−314)	プライマー	PF08B	AP40M (SB40M)					23	
TA−324 (TS−324)	プライマー	PF08B	AP40M (SB40M)	保護塗料				23	AS−T4
MTA−314 (MTS−314)	下地調整材	PF08B	AP40M (SB40M)					23	
MTA−324 (MTS−324)	下地調整材	PF08B	AP40M (SB40M)	保護塗料				23	AS−T4
露出絶縁防水（穴あきシート＋複層仕様）									
TA−314W (TS−314W)	プライマー	PF08B	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)				24	
TA−324W (TS−324W)	プライマー	PF08B	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料			24	
MTA−314W (MTS−314W)	下地調整材	PF08B	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)				24	
MTA−324W (MTS−324W)	下地調整材	PF08B	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料			24	
露出点張り防水（単層仕様）									
TA−312 (TS−312)	プライマー	AP40M (SB40M)						25	
TA−322 (TS−322)	プライマー	AP40M (SB40M)	保護塗料					25	AS−T4
MTA−312 (MTS−312)	下地調整材	AP40M (SB40M)						25	
MTA−322 (MTS−322)	下地調整材	AP40M (SB40M)	保護塗料					25	AS−T4
露出点張り防水（複層仕様）									
TA−312W (TS−312W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)					26	
TA−322W (TS−322W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料				26	AS−T3
MTA−312W (MTS−312W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)					26	
MTA−322W (MTS−322W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料				26	AS−T3
機械的固定工法（単層仕様）									
TA−311M (TS−311M)	プライマー	AP40M (SB40M)						27	
TA−321M (TS−321M)	プライマー	AP40M (SB40M)	保護塗料					27	
機械的固定工法（複層仕様）									
TA−311MW (TS−311MW)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)					28	
TA−321MW (TS−321MW)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料				28	

工法No.	工程 1	2	3	4	5	6	7	頁	官公庁仕様対応
部分粘着シート併用露出絶縁防水（複層仕様）									
TA−316W (TS−316W)	プライマー	SM20C	AP40M (SB40M)					29	
TA−326W (TS−326W)	プライマー	SM20C	AP40M (SB40M)	保護塗料				29	AS−T3
MTA−316W (MTS−316W)	下地調整材	SM20C	AP40M (SB40M)					29	
MTA−326W (MTS−326W)	下地調整材	SM20C	AP40M (SB40M)	保護塗料				29	AS−T3
粘着シート併用露出密着防水（複層仕様）									
TA−313W (TS−313W)	プライマー	SS20R	AP40M (SB40M)					30	
TA−323W (TS−323W)	プライマー	SS20R	AP40M (SB40M)	保護塗料				30	
MTA−313W (MTS−313W)	下地調整材	SS20R	AP40M (SB40M)					30	
MTA−323W (MTS−323W)	下地調整材	SS20R	AP40M (SB40M)	保護塗料				30	
露出断熱密着防水（単層仕様）									
TA−412 (TS−412)	RA水性ボンド	GFTボード	AP40M (SB40M)					31	
TA−422 (TS−422)	RA水性ボンド	GFTボード	AP40M (SB40M)	保護塗料				31	
MTA−412 (MTS−412)	メルベース	ACG材	GFTボード	AP40M (SB40M)				31	
MTA−422 (MTS−422)	メルベース	ACG材	GFTボード	AP40M (SB40M)	保護塗料			31	
露出断熱密着防水（複層仕様）									
TA−412W (TS−412W)	RA水性ボンド	GFTボード	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)				33	
TA−422W (TS−422W)	RA水性ボンド	GFTボード	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料			33	
MTA−412W (MTS−412W)	メルベース	ACG材	GFTボード	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)			33	
MTA−422W (MTS−422W)	メルベース	ACG材	GFTボード	AP25B (SB25B)	AP40M (SB40M)	保護塗料		33	
粘着シート併用露出断熱密着防水（複層仕様）									
TA−413W (TS−413W)	RA水性ボンド	GFボードまたは同等品	SS20R	AP40M (SB40M)				35	
TA−423W (TS−423W)	RA水性ボンド	GFボードまたは同等品	SS20R	AP40M (SB40M)	保護塗料			35	
MTA−413W (MTS−413W)	メルベース	ACG材	GFボードまたは同等品	SS20R	AP40M (SB40M)			35	
MTA−423W (MTS−423W)	メルベース	ACG材	GFボードまたは同等品	SS20R	AP40M (SB40M)	保護塗料		35	
部分粘着シート併用露出断熱絶縁防水（複層仕様）									
TA−416W (TS−416W)	RA水性ボンド	GFボードまたは同等品	SM20C	AP40M (SB40M)				37	
TA−426W (TS−426W)	UBE水性プライマー	RA水性ボンド	GFボードまたは同等品	SM20C	AP40M (SB40M)	保護塗料		37	ASI−T1
MTA−416W (MTS−416W)	メルベース	ACG材	GFボードまたは同等品	SM20C	AP40M (SB40M)			37	
MTA−426W (MTS−426W)	メルベース	ACG材	GFボードまたは同等品	SM20C	AP40M (SB40M)	保護塗料		37	ASI−T1
保護打設駐車場防水（複層仕様）									
TA−502W (TS−502W)	プライマー	AP25B (SB25B)	AP25B (SB25B)	アスコン				39	
MTA−502W (MTS−502W)	下地調整材	AP25B (SB25B)	AP25B (SB25B)	アスコン				39	

※仕様によりシート、断熱材、下地調整材など使用する材料が異なりますので詳しくは各工法ページをご参照ください。

保護打設防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層、防水層全面撤去時）

適　用　●RC、デッキプレート版、PCa下地

TA−101W（TS−101W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤絶縁層	⑥保護層
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	UBE絶縁シート	モルタル又はコンクリート （別途工事）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）

適　用　●RC、デッキプレート版、PCa下地

MTA−101W（MTS−101W）

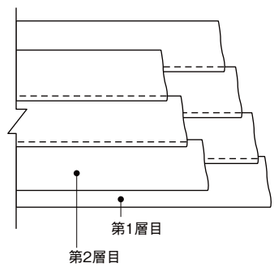
①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤絶縁層	⑥保護層
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	UBE絶縁シート	モルタル又はコンクリート （別途工事）

（注）1. 立上りは工程⑤の絶縁層を省略します。.
2. （　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
3. 立上りが露出仕上げの場合は、保護塗料（RAコート、RA高反射コート、RA遮熱コート）を塗布して仕上げます。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。

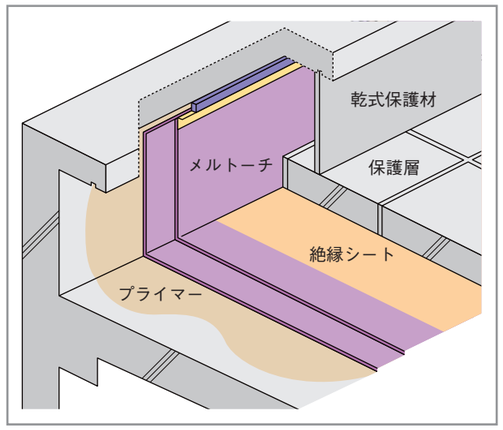
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈平場の納まり図〉

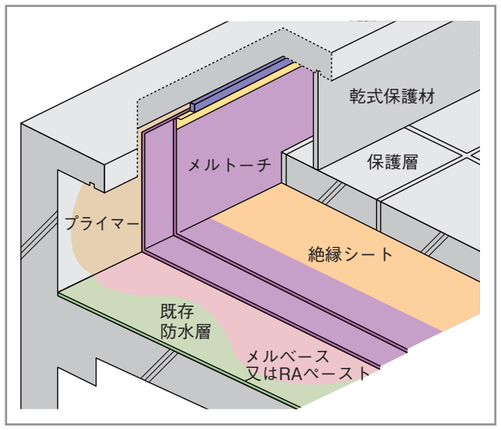


TA−101W（TS−101W）



上記納まりは一例です

MTA−101W（MTS−101W）



上記納まりは一例です

保護断熱防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層、防水層全面撤去時）

適　用　●RC、デッキプレート版、PCa下地

TA−401W（TS−401W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤接着剤	⑥断熱材	⑦絶縁層	⑧保護層
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	RA水性ボンド　0.3kg／㎡	ポリスチレンフォーム 3種	UBE絶縁シート	モルタル又はコンクリート （別途工事）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）

適　用　●RC、デッキプレート版、PCa下地

MTA−401W（MTS−401W）

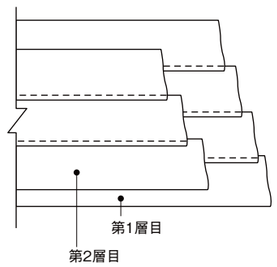
①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤接着剤	⑥断熱材	⑦絶縁層	⑧保護層
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	RA水性ボンド　0.3kg／㎡	ポリスチレンフォーム 3種	UBE絶縁シート	モルタル又はコンクリート （別途工事）

（注）1. 立上りは工程⑤〜⑦までを省略します。
2.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
3. 立上りが露出仕上げの場合は、保護塗料（RAコート、RA高反射コート、RA遮熱コート）を塗布して仕上げます。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。

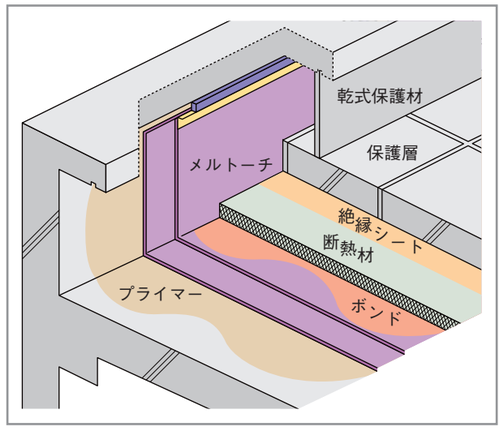
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 断熱材の張り付けは、接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛又はゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させてから張り付けます。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈平場の納まり図〉

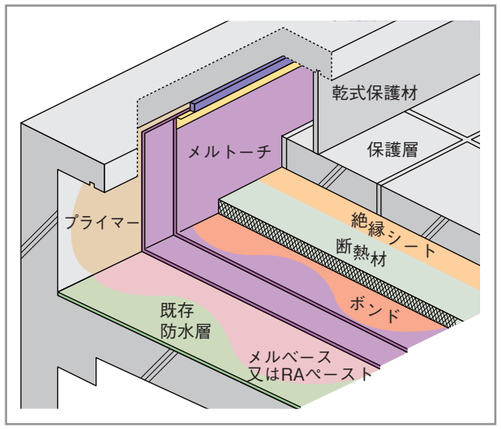


TA−401W（TS−401W）



上記納まりは一例です

MTA−401W（MTS−401W）



上記納まりは一例です

露出防水（単層仕様）

新築・改修（既存保護層、防水層全面撤去時）［公共建築工事標準仕様書、公共建築改修工事標準仕様書　AS−T2工法相当］

適　用　●非歩行用屋上　●RC、PCa、ALCパネル構造

TA−321（TS−321）

①プライマー	②増張り	③防水層	④保護塗料※
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−311（TS−311）」工法は、④保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T2工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T2工法相当］

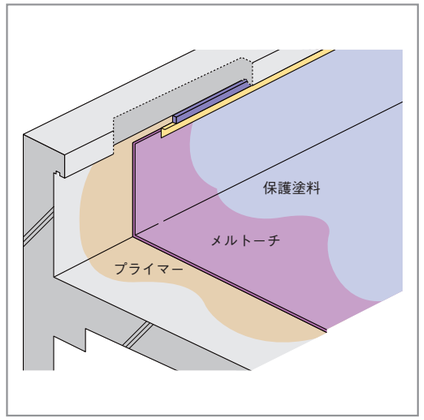
適　用　●非歩行用屋上　●RC、PCa、ALCパネル構造

MTA−321（MTS−321）

①下地調整材	②増張り	③防水層	④保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAベースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

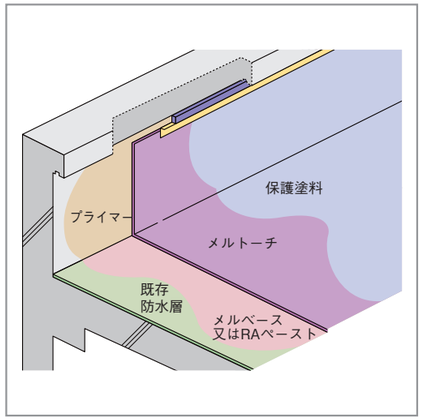
※「MTA−311（MTS−311）」工法は、④保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T2工法は適用外となります）

TA−321（TS−321）



上記納まりは一例です

MTA−321（MTS−321）



上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
3. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

露出防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層、防水層全面撤去時）［公共建築工事標準仕様書、公共建築改修工事標準仕様書　AS−T1工法相当］

適　用　●重要な建築物の非歩行用屋上　●RC、PCa、ALCパネル下地

TA−321W（TS−321W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−311W（TS−311W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T1工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T1工法相当］

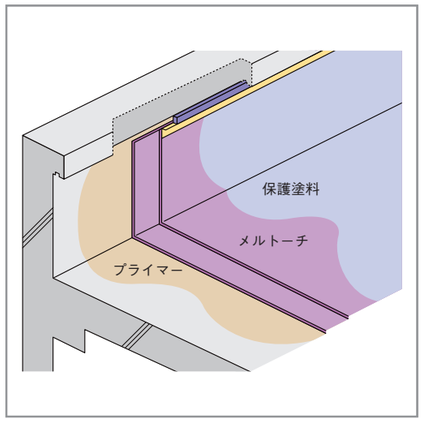
適　用　●重要な建築物の非歩行用屋上　●RC、PCa、ALCパネル下地

MTA−321W（MTS−321W）

①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAベースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

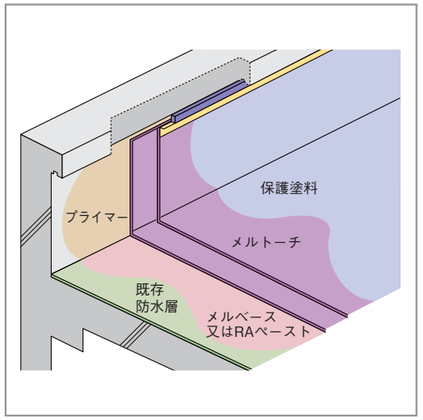
※「MTA−311W（MTS−311W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T1工法は適用外となります）

TA−321W（TS−321W）



上記納まりは一例です

MTA−321W（MTS−321W）



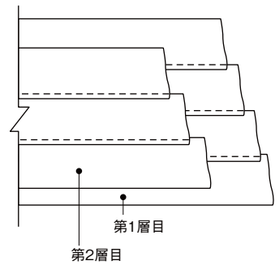
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
3. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈平場の納まり図〉



露出絶縁防水（穴あきシート＋単層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T4工法相当］

適用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

TA−324（TS−324）

①プライマー	②増張り	③穴あきシート	④防水層	⑤保護塗料※
メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	パーフォベース PF08B	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−314（TS−314）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T4工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T4工法相当］

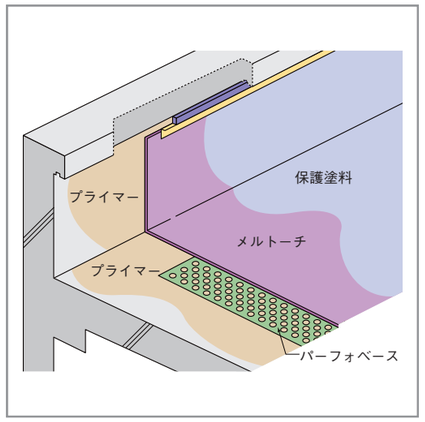
適用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

MTA−324（MTS−324）

①下地調整材	②増張り	③穴あきシート	④防水層	⑤保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAベースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	パーフォベース PF08B	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

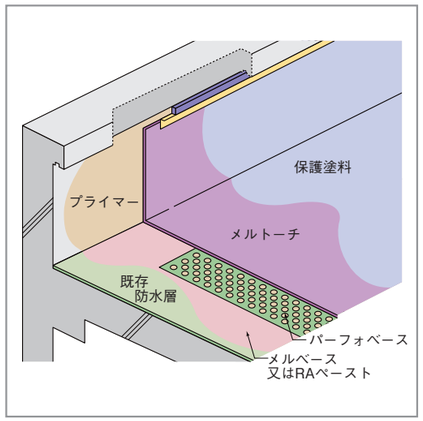
※「MTA−314（MTS−314）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T4工法は適用外となります）

TA−324（TS−324）



上記納まりは一例です

MTA−324（MTS−324）



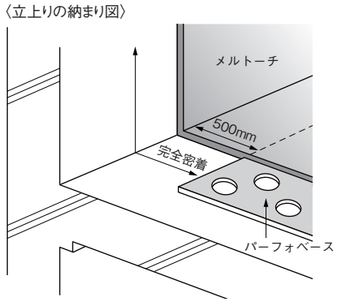
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 脱気筒は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
3. 立上りは、③の穴あきシートは省略し密着仕様となります。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- パーフォベースの範囲は出入隅の約500㎜手前までとします。
- パーフォベースは下地に接着しないで30㎜程度重ねます。施工時に風の為にめくれたり移動したりする恐れのある場合は要所要所を軽くバーナーで炙って点付けします。
- 絶縁層及び脱気筒を設ける事によりフクレの発生が防止でき、パーフォベースが入ることによって下地亀裂追従性が更に高まります。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈立上りの納まり図〉



露出絶縁防水（穴あきシート＋複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）

適用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

TA−324W（TS−324W）

①プライマー	②増張り	③穴あきシート	④防水層（1層目）	⑤防水層（2層目）	⑥保護塗料※
メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	パーフォベース PF08B	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−314W（TS−314W）」工法は、⑥保護塗料の工程を省略します。

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）

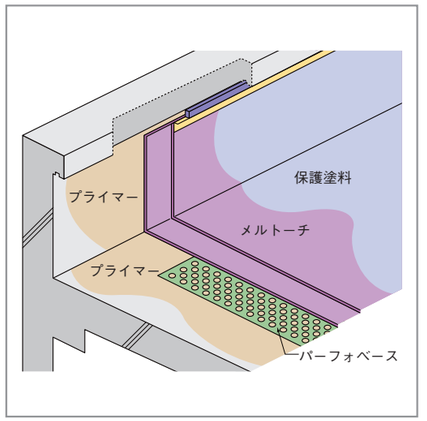
適用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

MTA−324W（MTS−324W）

①下地調整材	②増張り	③穴あきシート	④防水層（1層目）	⑤防水層（2層目）	⑥保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAベースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	パーフォベース PF08B	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

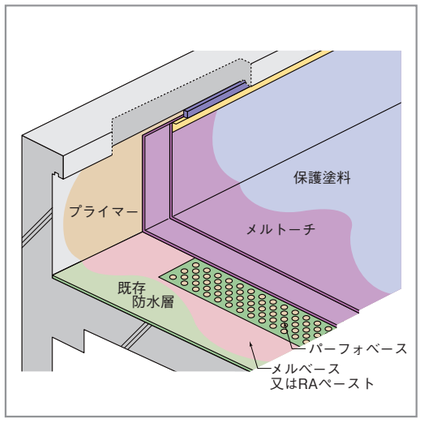
※「MTA−314W（MTS−314W）」工法は、⑥保護塗料の工程を省略します。

TA−324W（TS−324W）



上記納まりは一例です

MTA−324W（MTS−324W）



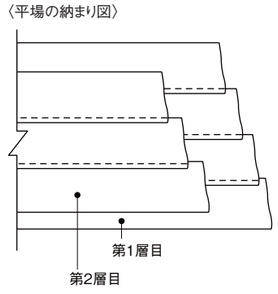
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 脱気筒は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
3. 立上りは、③の穴あきシートは省略し密着仕様となります。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- パーフォベースの範囲は出入隅の約500㎜手前までとします。
- パーフォベースは下地に接着しないで30㎜程度重ねます。施工時に風の為にめくれたり移動したりする恐れのある場合は要所要所を軽くバーナーで炙って点付けします。
- 絶縁層及び脱気筒を設ける事によりフクレの発生が防止でき、パーフォベースが入ることによって下地亀裂追従性が更に高まります。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈平場の納まり図〉



露出点張り防水（単層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T4工法相当］

適　用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

TA−322（TS−322）

①プライマー	②増張り	③防水層	④保護塗料※
メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）点張り	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−312（TS−312）」工法は、④保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T4工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T4工法相当］

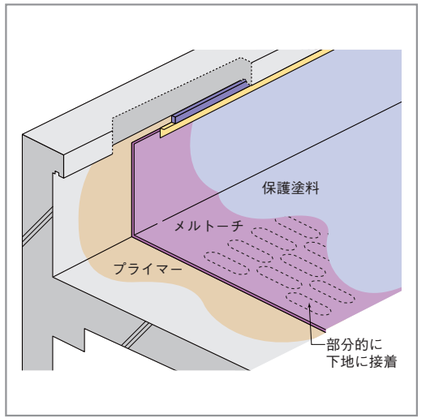
適　用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

MTA−322（MTS−322）

①下地調整材	②増張り	③防水層	④保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）点張り	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

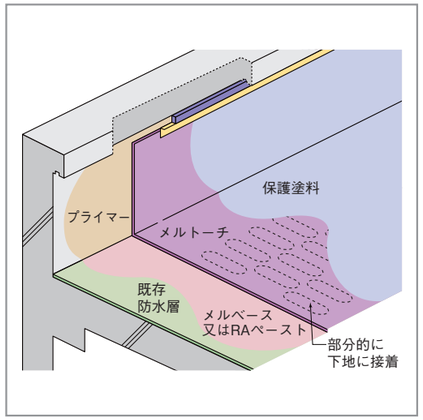
※「MTA−312（MTS−312）」工法は、④保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T4工法は適用外となります）

TA−322（TS−322）



上記納まりは一例です

MTA−322（MTS−322）



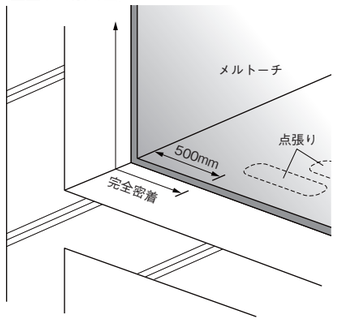
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
3. 立上りは③が密着仕様になります。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- メルトーチの裏面フィルムに部分接着する場所が印刷されていますので、この部分を良く炙り下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500㎜手前までとし、その他の範囲は密着張りとします。
- 点張り工法によって下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈立上りの納まり図〉



加熱融着部分

露出点張り防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T3工法相当］

適　用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

TA−322W（TS−322W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）点張り	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−312W（TS−312W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T3工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T3工法相当］

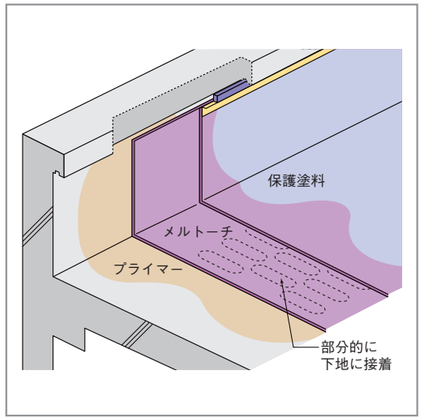
適　用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

MTA−322W（MTS−322W）

①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）点張り	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

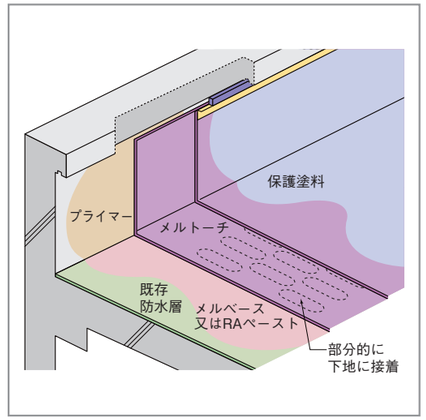
※「MTA−312W（MTS−312W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T3工法は適用外となります）

TA−322W（TS−322W）



上記納まりは一例です

MTA−322W（MTS−322W）



上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
3. 立上りは③が密着仕様になります。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- メルトーチの裏面フィルムに部分接着する場所が印刷されていますので、この部分を良く炙り下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500㎜手前までとし、その他の範囲は密着張りとします。
- 点張り工法によって下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

機械的固定工法（単層仕様）

改修（既存保護層又は露出防水層を残す場合）

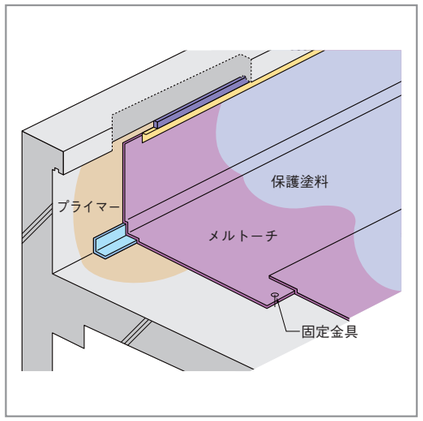
適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa下地

TA−321M（TS−321M）

①プライマー	②増張り	③防水層	④保護塗料※
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡ （立上り及び立上り周辺のみ）	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M） 固定金具　ディスク、クロウプラグ	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−311M（TS−311M）」工法は、④保護塗料の工程を省略します。

TA−321M（TS−321M）



上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. ①のプライマーは下地へ密着張りする立上り及び役物回りのみ塗布します。
3. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
6. ALC下地の場合は適用できません。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 固定金具の取り付けはメルトーチの割り付けや風荷重の分布等を考慮して固定金具の種類や間隔を決定します。
- 固定金具の下穴は、使用する金具に応じて所定の直径と深さを確保します。
- 複層仕様の2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 部分固定工法ですので下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 機械的固定工法の為、湿潤面下地での施工も可能です。
- 密着範囲の既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

機械的固定工法（複層仕様）

新築・改修（既存保護層又は露出防水層を残す場合）

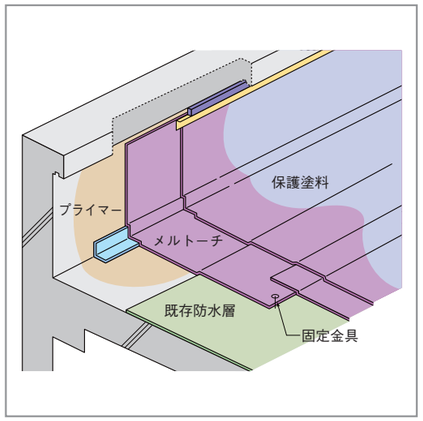
適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa下地

TA−321MW（TS−321MW）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡ （立上り及び立上り周辺のみ）	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B） 固定金具　ディスク、クロウプラグ	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−311MW（TS−311MW）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。

TA−321MW（TS−321MW）



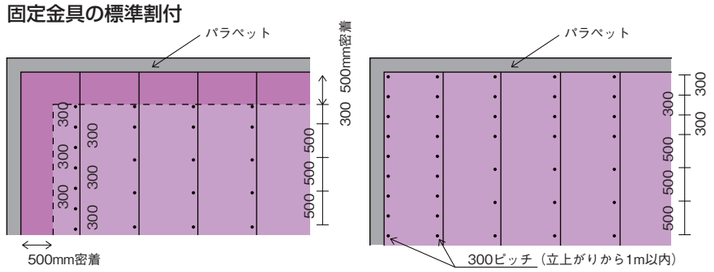
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. ①のプライマーは下地へ密着張りする立上り及び役物回りのみ塗布します。
3. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
6. ALC下地の場合は適用できません。

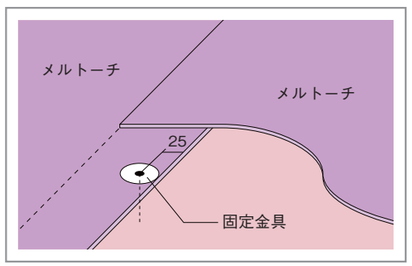
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 固定金具の取り付けはメルトーチの割り付けや風荷重の分布等を考慮して固定金具の種類や間隔を決定します。
- 固定金具の下穴は、使用する金具に応じて所定の直径と深さを確保します。
- 複層仕様の2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 部分固定工法ですので下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 機械的固定工法の為、湿潤面下地での施工も可能です。
- 密着範囲の既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

固定金具の標準割付



メルトーチ接合部の固定金具の位置



アンカーの種類

下地の種類	アンカーの種類	ディスク	ドリルの径
コンクリート	Y−530	Aタイプ	5.4〜5.5
ゴムシート、塩ビシート	Y−530	Aタイプ	5.4〜5.5
熱アスファルト防水（断熱材なし）	Y−650	Bタイプ	6.5
	AY−550	Aタイプ	5.4〜5.5
露出断熱防水	断熱材の厚みにより使用するアンカーとディスクが異なります。 断熱材の厚みをご確認ください。		
推奨自動釘打ち機：エアロスミス	専用エアーピン	Aタイプ	−

部分粘着シート併用露出絶縁防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T3工法相当］

適用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

TA−326W（TS−326W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
メルトーチプライマー又は UBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	平場　RAスポットSM20C 立上り　メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−316W（TS−316W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T3工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）［公共建築改修工事標準仕様書　AS−T3工法相当］

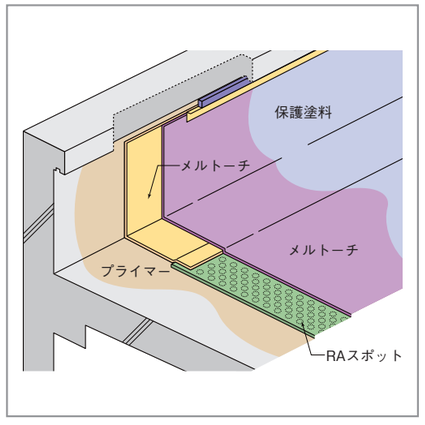
適用　●非歩行用屋上　●施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

MTA−326W（MTS−326W）

①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
RAベースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	平場　RAスポットSM20C 立上り　メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

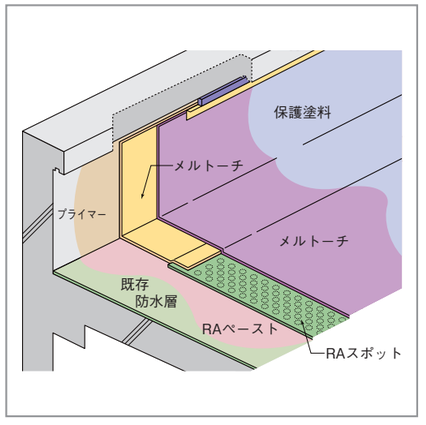
※「MTA−316W（MTS−316W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。（但し、AS−T3工法は適用外となります）

TA−326W（TS−326W）



上記納まりは一例です

MTA−326W（MTS−326W）

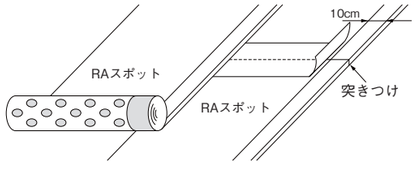


上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 原則として立上りの③の工程はメルトーチAP25B（SB25B）を用いますが、RAシートSS20Rに替える場合は①がRAプライマー、②がRAテープWT133になります。
3. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 1層目のRAスポットは離型紙を剥しながら下地へ張り付けます。
- RAスポットの張り付け範囲は出入隅の約500㎜手前とします。
- RAスポットのジョイント処理はサイドラップ部はそのまま100㎜重ねますがエンドラップ部は突き付けてその上に200㎜のRAシート又はメルテープを張り付けます。
- 2層目のメルトーチはトーチバーナーで加熱しながら張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 部分粘着型通気シートのRAスポットとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法で、フクレ防止が可能、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。



粘着シート併用露出密着防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層、防水層全面撤去時又は既存防水層が加硫ゴムシートの場合）

適用　●非歩行用屋上　●RC、PCa、ALCパネル構造下地

TA−323W（TS−323W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護塗料※
RAプライマー 0.2kg／㎡	RAテープWT133	RAシートSS20R	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「TA−313W（TS−313W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。

改修（既存アスファルト防水層を残す場合）

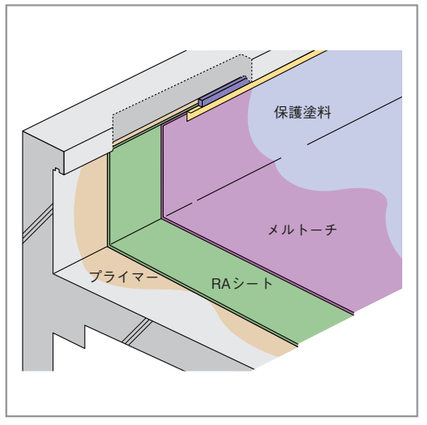
適用　●非歩行用屋上　●RC、PCa、ALCパネル構造下地

MTA−323W（MTS−323W）

①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑥保護塗料※
RAベースト 1.0〜1.5kg／㎡	RAテープWT133	RAシートSS20R	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

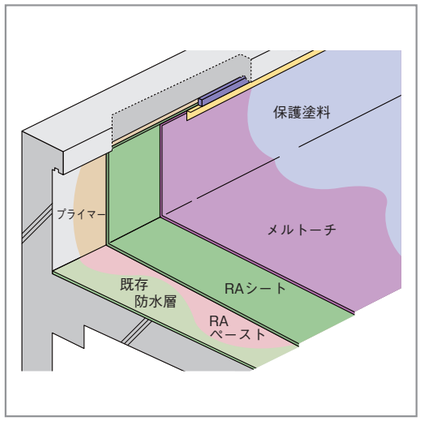
※「MTA−313W（MTS−313W）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。

TA−323W（TS−323W）



上記納まりは一例です

MTA−323W（MTS−323W）



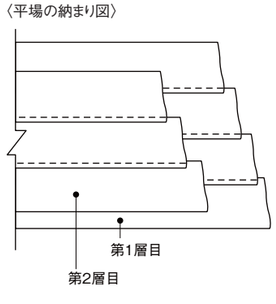
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. RAシートSS20Rの3枚重ね部は水みちになり易いのでRAシール処理を行なってください。
3. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
4. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 1層目のRAシートは離型紙を剥しながら空気を抱きこまないように下地へ張り付けます。
- 2層目のメルトーチはトーチバーナーで加熱しながら張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 常温自着工法のRAシートとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法です。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈平場の納まり図〉



露出断熱密着防水（単層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

TA−422（TS−422）

①接着剤※	②断熱層	③増張り	④防水層	⑤保護塗料※
RA水性ボンド 0.3kg／㎡	特殊硬質ウレタンフォーム GFTボード RAテープ　MTS205（目地部）	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※①の接着剤を下地の不陸が大きい場合は、アクアシャッターACG材1.5kg／㎡点張に変更可能です。
※「TA−412（TS−412）」工法は、⑤保護塗料の工程を省略します。

改修（既存アスファルト防水層非撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

MTA−422（MTS−422）

①下地調整材	②接着剤	③断熱層	④増張り	⑤防水層	⑥保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	アクアシャッターACG材 1.5kg／㎡ 点張り （断熱材1枚につき5ヶ所以上を点張り）	特殊硬質ウレタンフォーム GFTボード RAテープ　MTS205（目地部）	メルテープT2520A （T2520S）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

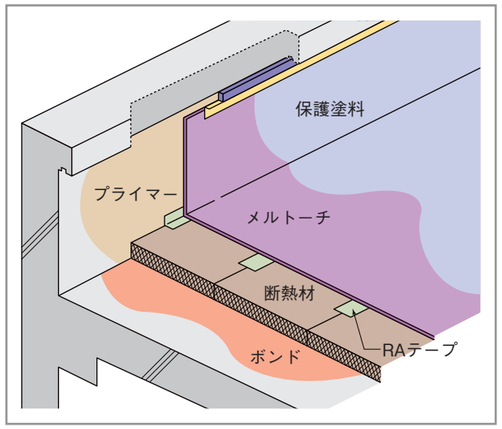
※「MTA−412（MTS−412）」工法は、⑥保護塗料の工程を省略します。

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 断熱材の厚みは標準で25㎜としていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
3. 立上りは、下地調整材、接着剤、断熱層の工程を省略し、プライマー塗布後、増張り以降の工程を行ないます。
4. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
5. 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
6. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

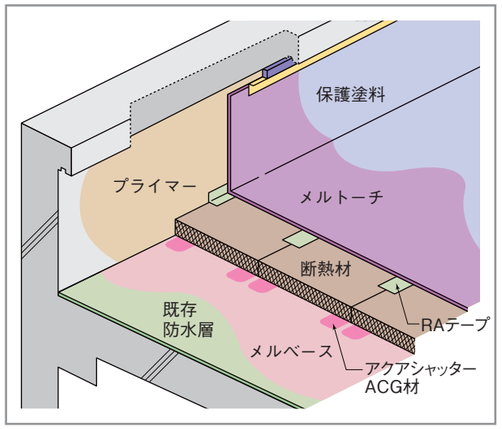
- 断熱材はトーチ工法用特殊硬質ウレタンフォーム「GFTボード」（アキレス社品又は同等品）を用います。
- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 断熱材の目地部はRAテープ（MTS205）を火の浸入を防ぐ為に捨張りします。
- アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。（既存が高分子系防水層の場合は必須）

TA−422（TS−422）



上記納まりは一例です

MTA−422（MTS−422）



上記納まりは一例です

ACG材塗布

断熱材張り付け

露出断熱密着防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

TA−422W（TS−422W）

①接着剤※	②断熱層	③増張り	④防水層（1層目）	⑤防水層（2層目）	⑥保護塗料※
RA水性ボンド 0.3kg／㎡	特殊硬質ウレタンフォーム GFTボード RAテープ　MTS205（目地部）	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※①の接着剤を下地の不陸が大きい場合は、アクアシャッターACG材1.5kg／㎡点張に変更可能です。
※「TA−412W（TS−412W）」工法は、⑥保護塗料の工程を省略します。

改修（既存アスファルト防水層非撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

MTA−422W（MTS−422W）

①下地調整材	②接着剤	③断熱層	④増張り	⑤防水層（1層目）	⑥防水層（2層目）	⑦保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	アクアシャッターACG材 1.5kg／㎡ 点張り （断熱材1枚につき5ヶ所以上を点張り）	特殊硬質ウレタンフォーム GFTボード RAテープ　MTS205（目地部）	メルテープT2520A （T2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

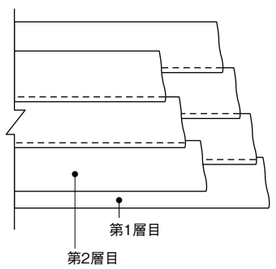
※「MTA−412W（MTS−412W）」工法は、⑦保護塗料の工程を省略します。

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 断熱材の厚みは標準で25㎜としていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
3. 立上りは、下地調整材、接着剤、断熱層の工程を省略し、プライマー塗布後、増張り以降の工程を行ないます。
4. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
5. 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
6. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

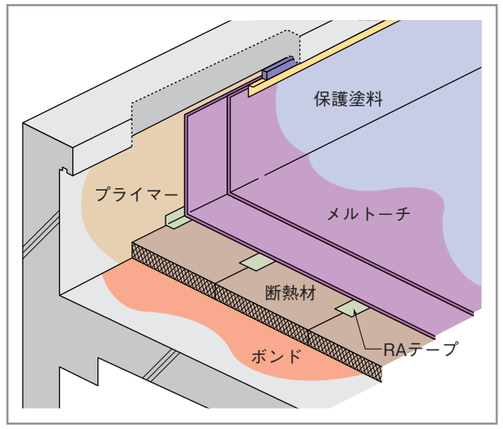
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 断熱材はトーチ工法用特殊硬質ウレタンフォーム「GFTボード」（アキレス社品又は同等品）を用います。
- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 断熱材の目地部はRAテープ（MTS205）を火の浸入を防ぐ為に捨張りします。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。（既存が高分子系防水層の場合は必須）

〈平場の納まり図〉

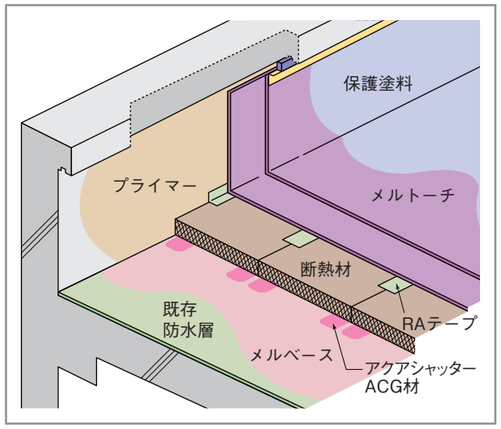


TA−422W（TS−422W）



上記納まりは一例です

MTA−422W（MTS−422W）



上記納まりは一例です

粘着シート併用露出断熱密着防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

TA−423W（TS−423W）

①接着剤※	②断熱層	③増張り	④防水層（1層目）	⑤防水層（2層目）	⑥保護塗料※
RA水性ボンド 0.3kg／㎡	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	RAテープWT133	RAシートSS20R	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※①の接着剤を下地の不陸が大きい場合は、アクアシャッターACG材1.5kg／㎡点張に変更可能です。
※「TA−413W（TS−413W）」工法は、⑥保護塗料の工程を省略します。

改修（既存アスファルト防水層非撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル下地

MTA−423W（MTS−423W）

①下地調整材	②接着剤	③断熱層	④増張り	⑤防水層（1層目）	⑥防水層（2層目）	⑦保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	アクアシャッターACG材 1.5kg／㎡ 点張り （断熱材1枚につき5ヶ所以上点張り）	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	RAテープWT133	RAシートSS20R	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

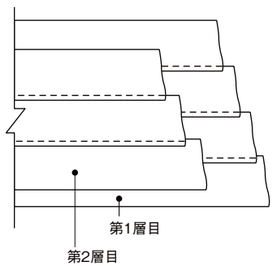
※「MTA−413W（MTS−413W）」工法は、⑦保護塗料の工程を省略します。

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 断熱材の厚みは標準で25㎜としていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
3. 立上りは、下地調整材、接着剤、断熱層の工程を省略し、RAプライマー塗布後、増張り以降の工程を行ないます。
4. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
5. 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
6. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

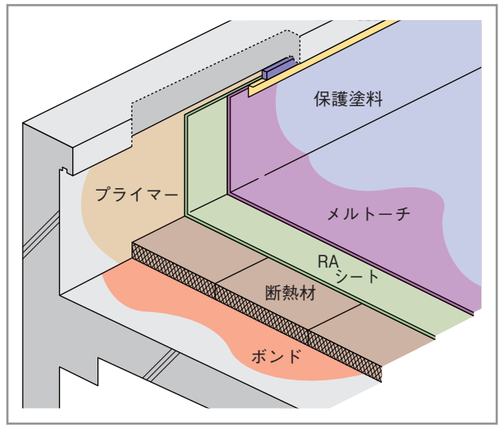
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 断熱材は熱工法用硬質ウレタンフォーム、1層目はRAシートSS20Rを用います。
- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 常温自着工法のRAシートとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法です。
- アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。（既存が高分子系防水層の場合は必須）

〈平場の納まり図〉

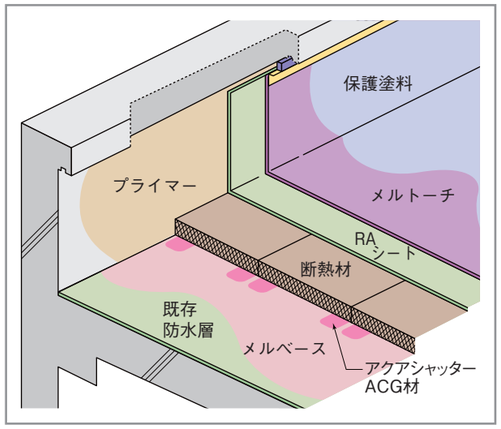


TA−423W（TS−423W）



上記納まりは一例です

MTA−423W（MTS−423W）



上記納まりは一例です

部分粘着シート併用露出断熱絶縁防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）[公共建築改修工事標準仕様書　ASI−T1工法相当]

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル下地　●施工後、比較的フクレの発生し易い下地

TA−426W（TS−426W）

①プライマー	②接着剤※	③断熱層	④増張り	⑤防水層（1層目）	⑥防水層（2層目）	⑦保護塗料※
UBE水性プライマー 0.2kg／㎡	RA水性ボンド 0.3kg／㎡	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	RAテープST020	平場　RAスポットSM20C RAシートSS20R 立上り　メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※②の接着剤を下地の不陸が大きい場合は、アクアシャッターACG材1.5kg／㎡点張に変更可能です。
※「TA−416W（TS−416W）」工法は、⑦保護塗料の工程を省略します。（但し、ASI−T1工法は適用外となります）

改修（既存アスファルト防水層非撤去時）

適　用　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル下地　●施工後、比較的フクレの発生し易い下地

MTA−426W（MTS−426W）

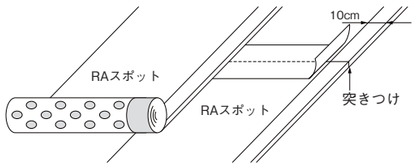
①下地調整材	②接着剤	③断熱層	④増張り	⑤防水層（1層目）	⑥防水層（2層目）	⑦保護塗料※
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	アクアシャッターACG材 1.5kg／㎡ 点張り （断熱材1枚につき5ヶ所以上点張り）	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	RAテープST020	平場　RAスポットSM20C RAシートSS20R 立上り　メルトーチAP25B （メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート　0.5kg／㎡ RA高反射コート　0.5kg／㎡ RA遮熱コート　1.5kg／㎡

※「MTA−416W（MTS−416W）」工法は、⑦保護塗料の工程を省略します。（但し、ASI−T1工法は適用外となります）

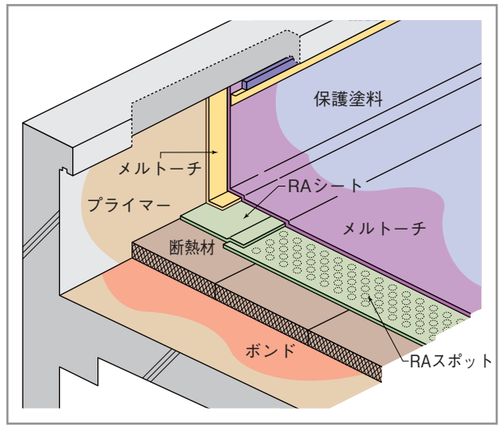
（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 断熱材の厚みは標準で25㎜としていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
3. 原則として立上りの防水層（1層目）は、下地調整剤、接着剤、断熱層の工程を省略してプライマー塗布後、メルトーチAP25B（SB25B）を用います。
4. 脱気筒を設置する場合は「25〜100㎡に1個」を目安に設置します。
5. 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
6. メルトーチAP40M（SB40M）は、4.5㎜厚のAP45M（SB45M）への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
7. 防湿層設置の場合は、弊社販売担当者にお問い合わせください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 断熱材は熱工法用硬質ウレタンフォーム、1層目はRAスポットSM20Cを用います。
- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 出隅及び入隅は、改質アスファルトシート張付けに先立ち、ST020を用いて増張り処理を行ないます。
- 1層目のRAスポットのジョイント処理はサイドラップは100㎜重ねますがエンドラップは突き付けてその上に200㎜幅のRAシート又はメルテープを張り付けます。なお、立上がりから500mmはSS20Rを用い密着張りになります。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 部分粘着型通気シートのRAスポットとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法です。
- フクレ防止が可能で、下地亀裂追従性が更に高まります。
- アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。（既存が高分子系防水層の場合は必須）

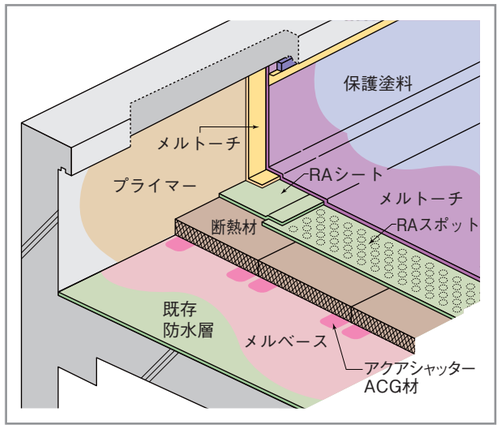


TA−426W（TS−426W）



上記納まりは一例です

MTA−426W（MTS−426W）



上記納まりは一例です

保護打設駐車場防水（複層仕様）

新築・改修（既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時）

適 用　●一般駐車場　●RC、デッキプレート版下地

TA−502W（TS−502W）

①プライマー	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護層
メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）点張り	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）	アスファルトコンクリート 50㎜厚以上（別途工事）

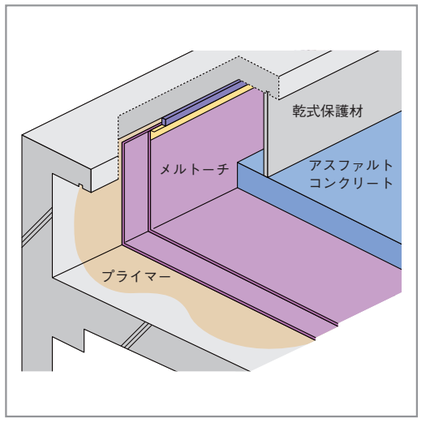
改修（既存アスファルト防水層非撤去時）

適 用　●一般駐車場　●RC、デッキプレート版下地

MTA−502W（MTS−502W）

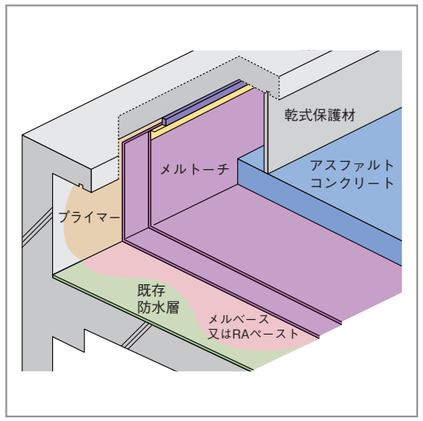
①下地調整材	②増張り	③防水層（1層目）	④防水層（2層目）	⑤保護層
メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）点張り	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）	アスファルトコンクリート 50㎜厚以上（別途工事）

TA−502W（TS−502W）



上記納まりは一例です

MTA−502W（MTS−502W）



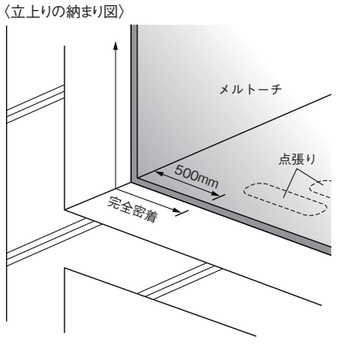
上記納まりは一例です

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 立上りが露出仕上げの場合は2層目のメルトーチAP25B（SB25B）をAP40M（SB40M）に替えて張り付け、保護塗料（RAコート、RA反射コート、RA遮熱コート）を塗布して仕上げます。
3. 立上りの既存防水層は原則撤去します。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- メルトーチの裏面フィルムに部分接着させる場所が印刷されていますのでこの部分を良く炙り、下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500㎜手前までとし、その他の範囲は密着張りとします。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 点張り工法により下地との絶縁が図れます。
- 既存防水層が高分子系（塩化ビニル樹脂系シートを除く）、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行なってからプライマーを塗布して施工してください。

〈立上りの納まり図〉



加熱融着部分

官公庁仕様

公共建築工事標準仕様書（平成25年度版）

適 用　●新築時　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

種　別	①プライマー	②防水層（1層目）及び増張り		③防水層（2層目）	④保護塗料
AS−T1（トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート（非露出複層防水用）	改質アスファルトシート（露出複層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
TA−321W（TS−321W）	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

種　別	①プライマー	②防水層及び増張り		③保護塗料
AS−T2（トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート（露出単層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
TA−321（TS−321）	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

（注）1.（　）内のTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. ALCパネルの場合は工程①のプライマー塗布量は0.4kg／㎡とします。
3. 出入り隅部分には納まりに関係なく、メルテープT2520A（T2520S）を必ず張り付けます。

公共建築改修工事標準仕様書（平成25年度版）

防水改修工法の種類及び種別

工法の種類	既存防水工法の種別	既存保護層及び防水層の撤去の有無による区分	新規防水工法の種別	「標準仕様書」による工法の種別
P0AS工法	保護アスファルト防水工法	保護層、防水層非撤去（立上り部等撤去）	屋根露出防水絶縁工法	AS−T3 AS−T4
M3AS工法	露出アスファルト防水工法	露出防水層撤去	屋根露出防水絶縁工法	AS−T3 AS−T4
M4AS工法	露出アスファルト防水工法	露出防水層非撤去（立上り部等撤去）	屋根露出防水密着工法	AS−T1 AS−T2
P0ASI工法	保護アスファルト防水工法	保護層、防水層非撤去（立上り部等撤去）	屋根露出防水断熱工法	ASI−T1
M3ASI工法	露出アスファルト防水工法	露出防水層撤去	屋根露出防水断熱工法	ASI−T1
M4ASI工法	露出アスファルト防水工法	露出防水層非撤去（立上り部等撤去）	屋根露出防水断熱工法	ASI−T1

▌▌屋根露出防水密着工法▐▐

適 用　●既存露出アスファルト防水層に被せての改修時　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

種　別	①下地調整	②防水層（1層目）及び増張り		③防水層（2層目）	④保護塗料
AS−T1（トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート（非露出複層防水用）	改質アスファルトシート（露出複層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
MTA−321W（MTS−321W）	メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP25B（メルトーチSB25B）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

種　別	①下地調整	②防水層及び増張り		③保護塗料
AS−T2（トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート（露出単層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
MTA−321（MTS−321）	メルベース 1.0〜1.5kg／㎡ 又はRAペースト 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A（メルテープT2520S）	メルトーチAP40M（メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 既存防水層を撤去した立上り面等には工程①を省略し、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを0.2kg／㎡（ALCパネルの場合は0.4kg／㎡）塗布します。
3. 出入り隅部分には納まりに関係なく、メルテープT2520A（T2520S）を必ず張り付けます。

官公庁仕様

屋根露出防水絶縁工法

適　用　●既存防水層撤去後の下地又は保護層への改修時　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

種　別	①下地調整	②防水層（1層目）及び増張り		③防水層（2層目）	④保護塗料
AS−T3 （トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート （[粘着層付]部分接着型シート）	改質アスファルトシート （露出複層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
TA−326W （TS−326W）	メルトーチプライマー 又はUBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	RAスポットSM20C	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡
TA−322W （TS−322W）	メルトーチプライマー 又はUBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	メルトーチAP25B （メルトーチSB25B） 点張り	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

種　別	①下地調整	②穴あきシート及び増張り		③防水層	④保護塗料
AS−T4 （トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	出入隅部　増張り	穴あきシート	改質アスファルトシート （露出単層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
TA−324 （TS−324）	メルトーチプライマー 又はUBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	パーフォベース	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡
TA−322 （TS−322）	メルトーチプライマー 又はUBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	メルテープT2520A （メルテープT2520S）	−	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M） 点張り	RAコート 0.3kg／㎡

（注）1.（　）内のTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 既存防水層を撤去した立上り面等には工程①を省略し、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを0.2（0.4）kg／㎡（ALCパネルの場合は0.4kg／㎡）塗布します。
3. 出入り隅部分には納まりに関係なく、メルテープT2520A（T2520S）を必ず張り付けます。
4. 立上り、立下り及び役物回りはメルトーチAP25B（SB25B）で密着張りとします。

屋根露出防水断熱絶縁工法

適　用　●既存防水層撤去後の下地又は保護層への改修時　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

種　別	①プライマー	②接着剤	③断熱材	④防水層（1層目）及び増張り		⑤防水層（2層目）	⑥保護塗料
ASI−T1 （トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	接着剤塗布	断熱材	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート	改質アスファルトシート （露出複層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
TA−426W （TS−426W）	UBE水性プライマー 0.2（0.4）kg／㎡	RA水性ボンド 0.3kg／㎡	硬質ウレタンフォーム	RAテープWT133	RAスポットSM20C RAシートSS20R／ 立上りメルトーチ AP25B（SB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

適　用　●既存露出アスファルト防水層に被せての改修時　●非歩行用屋上　●RC、デッキプレート版、PCa、ALCパネル構造下地

種　別	①下地調整	②接着剤	③断熱材	④防水層（1層目）及び増張り		⑤防水層（2層目）	⑥保護塗料
ASI−T1 （トーチ工法）	プライマー塗布 0.2（0.4）kg／㎡	接着剤塗布	断熱材	出入隅部　増張り	改質アスファルトシート	改質アスファルトシート （露出複層防水用）	仕上げ塗料塗り 0.3kg／㎡
MTA−426W （MTS−426W）	メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	アクアシャッターACG材 1.5kg／㎡ 点張り	硬質ウレタンフォーム	RAテープWT133	RAスポットSM20C RAシートSS20R／ 立上りメルトーチ AP25B（SB25B）	メルトーチAP40M （メルトーチSB40M）	RAコート 0.3kg／㎡

（注）1.（　）内のTS・MTS工法№は寒冷地仕様です。その場合メルトーチ、メルテープは（　）内のSBタイプを用います。
2. 既存防水層を撤去した立上り面等には工程①を省略し、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを0.2（0.4）kg／㎡（ALCパネルの場合は0.4kg／㎡）塗布します。
3. ②のアクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。
4. 出入り隅部分には納まりに関係なく、RAテープST020を必ず張り付けます。
5. 立上り、立下り及び役物回りは、非露出複層防水用のメルトーチAP25B（SB25B）で密着張りとします。

●UR都市機構（都市再生機構保全工事共通仕様書　平成23年度版）

屋根防水部分修繕工事　アスファルト防水P型・常温工法

工　程	①	②	③	④
絶縁帯部	メルトーチプライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A	メルトーチAP40M	RAシール
一般部	メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	−	メルトーチAP40M	RAシール

（注）1. 絶縁帯を設ける部分は、既存防水層を200㎜幅で撤去し、プライマー塗布後にメルテープT2520Aを張り付けます。
2. 絶縁帯を超えてメルトーチAP40Mを既存防水層に張りかける接合幅は「150㎜」、メルトーチAP40M相互間の接合幅は「幅方向:100㎜、長手方向:150㎜」とします。
3. 端部は焼き金ゴテ処理後、RAシールでシール処理します。

屋根外断熱防水露出部全面修繕工事　アスファルト防水常温工法

●指定工法名　「TA−311CK」

工　程	①	②	③	④
露出部	<既存防水層撤去部> メルトーチプライマー 0.2kg／㎡ <既存防水層残存部> メルベース 1.0〜1.5kg／㎡	メルテープT2520A	メルトーチAP40M	RAコート 0.3kg／㎡
断熱部				−
成型板表面補強部		−	RAシートSS20R	RAコート 0.3kg／㎡

（注）1. メルトーチAP40M相互間の接合幅は、幅方向 100㎜、長手方向 150㎜とします。
2. 既存成型板のシワ、反りなどを補強する場合は新品と交換するか、凹凸を平滑処理後、メルベースを塗布します。
3. 端部は焼き金ゴテ処理後、RAシールでシール処理します。

脱気絶縁複合防水　軽歩行用シート系

●指定工法名　「TA−314K」（あなあき型通気絶縁用シート工法）

工　程	①	②	③	④	⑤
脱気絶縁部	メルトーチプライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A	パーフォベース	メルトーチAP40M	RAトップ 0.8kg／㎡
密着部			−		

●指定工法名　「TA−316WK」（部分粘着型通気絶縁用シート工法）

工　程	①	②	③	④	⑤
脱気絶縁部	メルトーチプライマー 0.2kg／㎡	メルテープT2520A	RAスポットSM20C	メルトーチAP40M	RAトップ 0.8kg／㎡
密着部			−		

（注）1. メルテープによる増張りの範囲は、改修用ドレンの中心から周囲500㎜、伸縮目地上、出入隅角、配管回りなどの役物回りです。
2. メルトーチAP40M相互間の接合幅は、幅方向　100㎜、長手方向　150㎜とします。
3. 架台など役物の周囲500㎜は、密着部のため、パーフォベース及びRAスポットSM20Cは張りません。
4. ルーフドレンには周囲を補修した後、改修用ドレンを設置します。

安全管理指針

1. 安全作業

①保護具

トーチ工法による防水施工にあたっては一般的な安全基準を守ると共に防水工事現場の状況に合わせて安全帽、安全帯、作業靴、皮手袋等の着用の他作業に適した服装をしなければなりません。

- 安全帽は脱落しないように顎紐をしっかり結んでおかなければ全く着用の意味がありません。
- 火を使う作業で合成繊維の布製手袋（軍手）はトーチバーナーや溶融したコンパウンドが手袋を溶かし皮膚に食い込み火傷をより酷くしてしまうので、皮手袋を着用してください。
- 作業靴については防水施工時に改質アスファルトルーフィングの表面を痛めないような工夫をした靴底をお勧めします。
- 長袖シャツ、長ズボンなどトーチバーナーを取扱うのに適した服装を着用してください。
- 手ぬぐい等は首に巻かないできちんと折りたたみ、腰に挟み込んでください。

②作業時の心掛け

- 危険な場所、安全通路、避難通路をあらかじめ確認してください。
- 万一の場合の災害にあっても、冷静な判断ができるよう防災訓練等には積極的に参加してください。
- 現場の安全標識を良く見て、現場安全意識の高揚に努めてください。
- 種々の施設、機械工具、材料等の不安全状態を無くし、常に整理整頓を心掛けてください。
- パラペットが低い場合、墜落の危険の恐れがあるので、丈夫な保護棚を設置し安全帯を使用してください。
- 万一の火災に備えて消火器の設置場所、救急用具の置き場所をあらかじめ確認しておいてください。

2. 危険物取扱い上の注意事項

溶剤系のメルトーチプライマーは消防法による規制を受けますが、この他にも、防水下地へ塗布する作業においては労働安全衛生の面からも注意しなければなりません。長時間にわたってプライマーの蒸気を吸入すると急性疾患に係わることもあります。危険物であるプライマー等の塗布作業に当たっては火気、点火源となる恐れのあるものを近付けたり、又、加熱したりすると火災等を引き起こして非常に危険です。取扱いに当たってはこれらの状況を踏まえて、ここでもう一度具体的に注意事項を列記いたします。

- プライマーを扱う時には必ず通風をよくして作業してください。
- ピット内など通風の悪い所では防爆型の通風機で室内の換気に努め、必ず2人以上で作業を行い、お互い連絡を取り合いながら短時間で交替してください。
- プライマー塗布作業時には火気に万全の注意をしてください。
- プライマーの保管には直射日光を受ける所を避け、一度に多量のプライマーを現場に持ち込まないでください。
- 万一の事故発生に備えて消火器を風上側に設置してください。

3. プロパンガス（LPG）ボンベ、トーチバーナー取扱い上の注意事項

消防法では LPG を 300kg 以上貯蔵し、又、取扱う場合には所轄消防署長に届け出が必要になるため、一度に多量の LPG を現場に持ち込まない様にしてください。又、取扱いに当たっては次の事項に注意して、安全に作業ができる様心掛ける事が必要です。

作業前の点検

- 許可された容器に充填されているプロパンガスボンベを使用してください。
- プロパンガス圧力調整用のレギュレーターを通して減圧し最適のガス圧力で使用してください。
- プロパンガス専用の指定ホースを使用してください。
- ガスホースが痛み摩耗していないか点検し、異常があれば直ちに指定のガスホースに取り替えてください。
- プロパンガスボンベは垂直に立てて使用してください。
- ガスに点火する前に石鹸水を用いてレギュレーター、ガスホース、トーチバーナーの接合部をプロパンガスの漏洩が無いか検査、チェックしてください。

着火時

- プロパンガスへの点火には、マッチ、使い捨てライター等を用いると着火時に火傷の恐れがあるので、手元が着火口より離れて点火できるものを使用してください。
- トーチバーナー使用中プロパンガスの臭いがしたらプロパンガスボンベの元栓を閉めた後、全ての部品をチェックしてください。僅かでもガス漏れしている部品の使用は危険です。
- トーチバーナーの炎は晴天時など見えにくい事もあるので十分注意してください。トーチバーナーを使用している以外の人は、トーチバーナーに近付かないようにしてください。
- 長時間使用しているとプロパンガスの気化熱によりボンベに霜が付着しガスの噴出圧力が下がりますが、この場合には別のボンベに切り替えてください。決してトーチバーナーで霜の付いたボンベを炙り、溶かしながら作業はしないでください。
- プロパンガスボンベのバルブを持って、ボンベを持ち上げたり移動させてはいけません。
- 防水施工が終了しトーチバーナーの火焔を消した後は、ボンベの元栓をしっかりと閉め、レギュレーターとホース、バーナー間に残っているプロパンガスを使い切るか、又は危険の無いように圧力を下げてください。
- プロパンガスボンベの火災発生時にはボンベには近付けなくなるので消火器はプロパンガスボンベの近くに置かないでください。

防水施工時

●プライマーを塗布中又は未乾燥の場合にはトーチバーナーの使用は避けてください。

- プロパンガスボンベはトーチバーナーの火焔より少なくとも5m以上離した所に設置して作業してください。
- 空調設備吸入口、開口部（点検口）、ドレン回りなどで作業する場合には炎が中に入り込まない様に注意してください。
- トーチバーナーはその熱によって改質アスファルトルーフィングの表面が溶融したり燃えたりするので、直接ルーフィングの上に置かない様にしてください。
- 密閉した室内等でガスが外気に発散しにくい箇所で作業をする時には、換気を十分に行なってください。

4. 救急処置

防水工事現場において作業員が怪我をしたり、急性の中毒に罹ることがあります。救急処置とはこれらの被災者に対して医師の診療が開始されるまで、応急的に行なう手当てで、医師の行なう診療行為とは正しく区別されなければなりません。常日頃安全対策を十分実施すると共に、適当な救急処置を平素からできる様に訓練しておく事が大切です。

創　傷

- 創面を不潔な指、紙、布切れで拭いたり、汚れた水で洗わないでください。
- 消毒して、創面に消毒ガーゼをあて軽く包帯を巻いて医師の処置を受けてください。

捻挫、脱臼

- 捻挫は打撲症と同様に局部を安静にして冷湿布をします。患部を揉んではいけません。
- 脱臼は動かさない様に副木で固定し冷湿布をし、医師の処置を受けてください。

火　傷

- できるだけ早く水で冷し続けます。
- 水膨れを生ずる場合には軟膏など塗らないで、水膨れを破らない様にして消毒ガーゼをあて軽く包帯を巻いて早く医師の処置を受けてください。

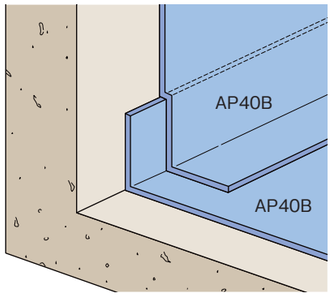
溶剤・ガス中毒、酸欠

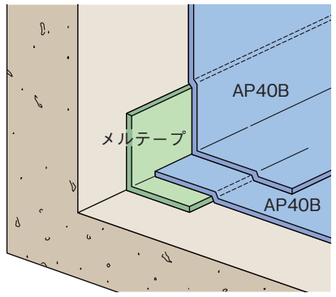
- 有毒ガスによる急性中毒に掛かった作業者を救助する場合には無防備で現場に入ってはいけません。状況を十分確認してから空気呼吸器、ホースマスク等を着用して救助活動を行ってください。
- 風通しの良い所に頭を低くして寝かせ衣服を緩め、できるだけ早く医師の処置を受けてください。必要が有れば人工呼吸をします。

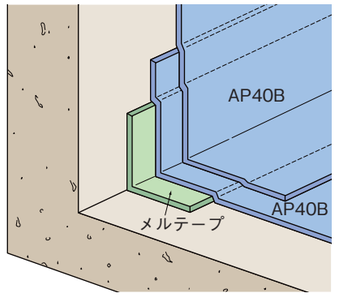
※バーナーセットには、バーナー、ホース、減圧用バルブ、金コテが青いケースに入っています。

立ち上り納まり図例

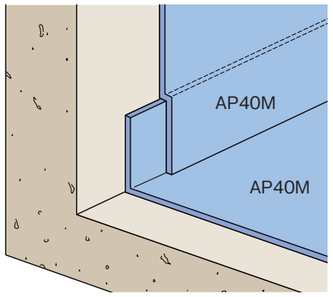
●押え防水工法（一層防水）

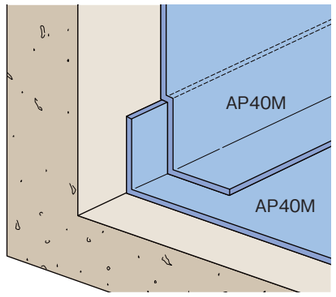


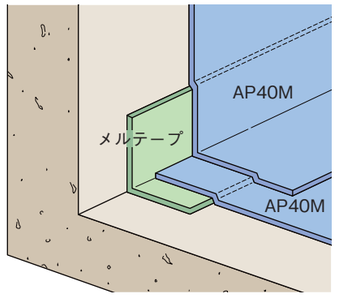




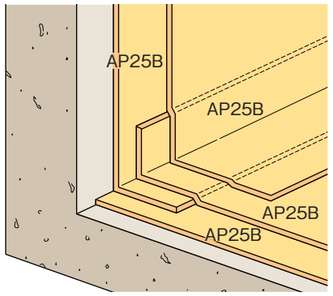
●露出防水工法（一層防水）

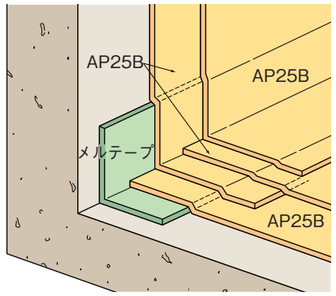


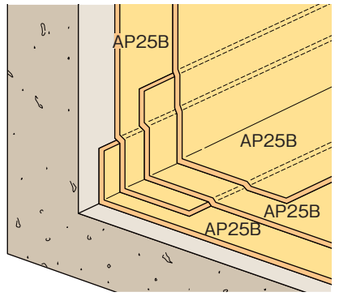




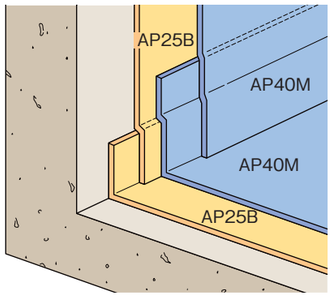
●押え防水工法（二層防水）

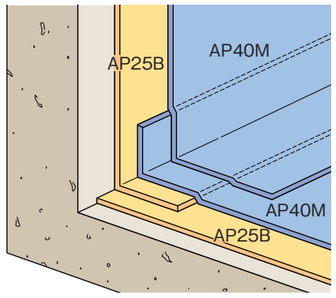


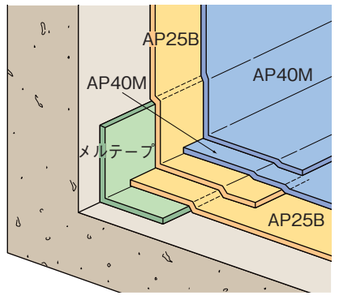




●露出防水工法（二層防水）







注意事項

1.設計段階での注意事項

下地構造と防水仕様	現場打ちコンクリート（RC、SRC）、デッキプレート型枠コンクリート、PCa構造の場合は露出及び保護打設防水工法が適用でき、ALCパネル構造の場合は露出防水工法が適用できます。
下地の作成	下地の表面は金ゴテで凹凸なく平滑に仕上げます。 PCa、ALCパネルの目地は段違いのないようにモルタルを充填し平滑に仕上げます。
下地の乾燥	下地は充分乾燥させます。（高周波水分測定器で測定し、含水率は10%以下が望ましい。） 下地はコンクリート打設後1ヶ月以上養生が必要です。 デッキプレート型枠コンクリートの場合、乾燥が悪いので養生期間を長くとります。
下地の勾配	勾配をとって水はけをよくすることが重要です。 露出防水工法で1／50以上、保護打設防水工法で1／50～1／100の勾配をとります。
ルーフドレン	ルーフドレンはシート防水用ドレンを使用します。
貫通パイプ	パイプなどの貫通管はツバまたはアンカーをとりつけた後、躯体の中に埋め込み、動かないよう固定します。
ALCパネル・PCa	ALCパネル、PCaは、部材間の挙動をできるだけ小さくし、部材接合部は平坦に仕上げます。
納まり	壁面立上り端末部は水切りを設け、防水層の端末部は金物で固定させます。
工法の選択	一般地仕様は、TA工法、寒冷地及びムーブメントが大きいと予想される場合、TS工法を用います。

2.防水工事完了後の注意事項

ラス・金網工事	防水層の直ぐ上にラスや金網を置いたり立てかけたりして、防水層を傷つけないようにします。 ラスを直接防水層の上に敷いて踏付けないようにします
モルタル･コンクリート打設工事	一輪車などでモルタルを搬入する場合、ベニヤ板で仮設通路を作ります。 ポンプ圧送する場合、木製台座（木馬）などをコンクリート用ホースの下に置きます。
左官・タイル工事	左官ゴテで傷つけないよう注意します。 水系張りのための釘打ちを防水層の上から行なわないようにします。
配管工事・溶接溶断工事	配管を移動してパイプ回りの水仕舞部分を損傷しないようにします。 防水工事後、防水層を貫通させて新しい配管工事を行なわないようにします。